

出現し続けるUFO!

UFO

GAP-JAPAN NEWSLETTER 

UFOと宇宙哲学の専門誌

コンタクティー

contactee

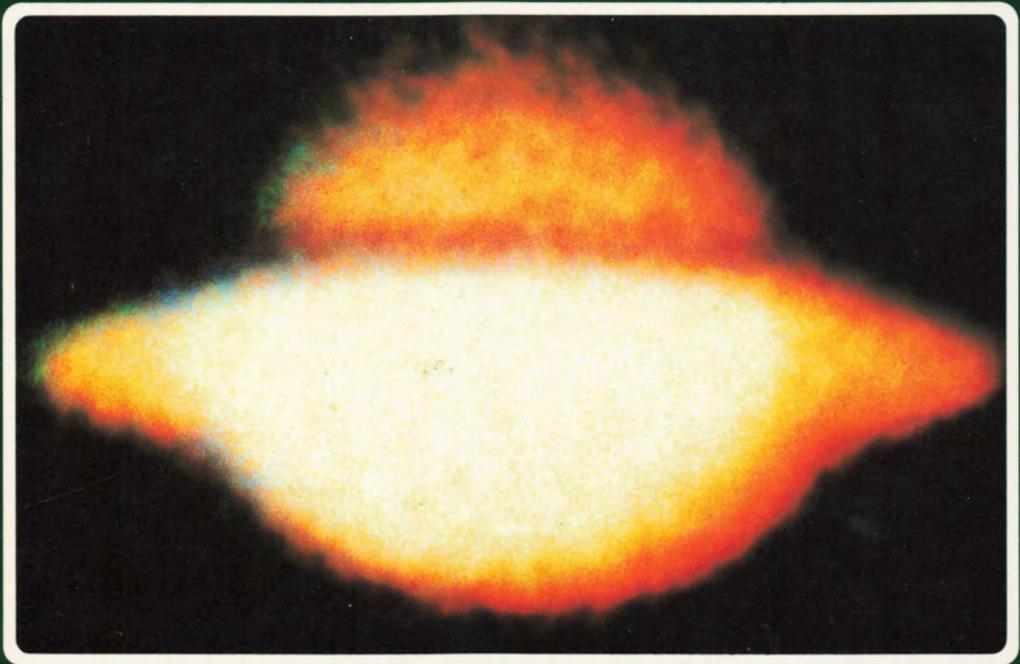
〈連載第4回〉

SUMMER
1987

私は別な惑星へ行ってきた!

驚異の書「生命の科学」と円盤大接近
八王子市でUFOを撮影 **表紙写真**
語りかけたらUFO出た—西丸震哉
別な惑星の偉大な人類と文明

97



〈巻頭言〉金星は生きている？	1
驚異の「生命の科学」と円盤大接近	伊藤達夫 2
八王子市でUFOを撮影	降旗和彦 10
語りかけたらUFO出た	西丸震哉 14
〈写真〉横浜港上空のUFO	15
別な惑星の偉大な人類と文明	G.アダムスキー 16
GAP短信	25
私は別な惑星へ行ってきた! 〈連載第4回〉	26
〈投稿欄〉ユーコン広場	34
〈報告〉1月度東京本部月例研究会／松山支部大会	36
〈予告〉62年度地方支部大会－その2－	37
〈広告〉アダムスキー全集／英文版ユーコン	38
〈広告〉62年度「アメリカ器器・メキシコの旅」	39
全国月例研究会案内	40



◆金星人からジョージ・アダムスキーに伝えられた金星のシンボルマーク。2個の図形の内、左側は宇宙の女性原理(陽)、右側は母性原理(陰)を意味する。円は宇宙をあらわしている。

GAPについて

GAPは「知らせる運動」という意味の世界的なグループ活動で、世界中の人々がUFOの真相について“知る”機会を与えられるべきであるという見地に基づいて1959年にジョージ・アダムスキーによって創始されました。彼の願いは「最大多数の人が現代の真実を発見して、来たるべき時代に眼を転じること、人間はすべて“コスミック・パワー”の子であり、そのパワーの諸法則が宇宙に遍満している事実を確信をもって知ること」にありました。この諸法則は他の世界(惑星)から来る友好的な訪問者からもたらされた“生命の科学”の研究と理解を通じて体得できます。

日本GAPの目的はUFOとスペース・ブラザーズ問題に関心ある人々に伝えることにあり、奉仕活動を通じて真実の解明と宇宙の法則の実践を呼びかけることにあります。その中心思想は次のとおりです。

1. この太陽系の他の惑星群には偉大な発達をとげた人類が居住しているが、米ソ等の大国政府はこの真相を隠している。
2. 他の世界から来る人々はこの世界の政治家や科学者とひそかにコンタクト(接触)しており、危機にひんした地球に対して救援の手をさしのべている。官民を問わずスペース・ブラザーズとコンタクトしている人々が少数存在すると思われるが、通常その真相は洩らされていない。
3. ジョージ・アダムスキーがもたらした哲学は、人類の精神の向上と地球の輝かしい未来を築くために不可欠のものである。

本誌は他の団体・個人と対立するものではなく、政治・宗教と関係のない非営利刊行物です。本誌が読者に対して多少とも役立てば幸いです。

■表紙写真は昭和61年12月17日、降旗和彦氏(神奈川県)が東京都八王子市で撮影した円盤。詳細は本号記事「八王子市でUFOを撮影」を参照。

Is Venus an Active Planet? 金星は生きているか

昨年ソ連が打ち上げた金星探査機ベネラ15、16号の観測結果によると、金星にはこれまで科学者が夢想だにしなかった大褶曲山脈が存在する事実をつきとめたという。これはベネラからのレーダー観測にもとづいて合成した写真をソ連科学アカデミーのベルナツキー地質研究所が発表したもので、「大変な発見だ。これまでプレートテクトニクスのような地殻運動がどうして地球だけに存在するのか全くわからなかった。その謎を解く重要なカギになる」と東大の惑星科学の専門家も言っている。写真。

褶曲山脈というのは、平坦な地層が横圧力を受けて波状にできたもので、超高空からの写真を見るとチリメン皺に似た山脈が写し出されている。ベネラの金星写真は長さ一キロの地形まで見分けられるという精密なもの。アルプス山脈を思わせる高さ数千メートル級の大褶曲山脈が鮮明に浮かび上がっている。

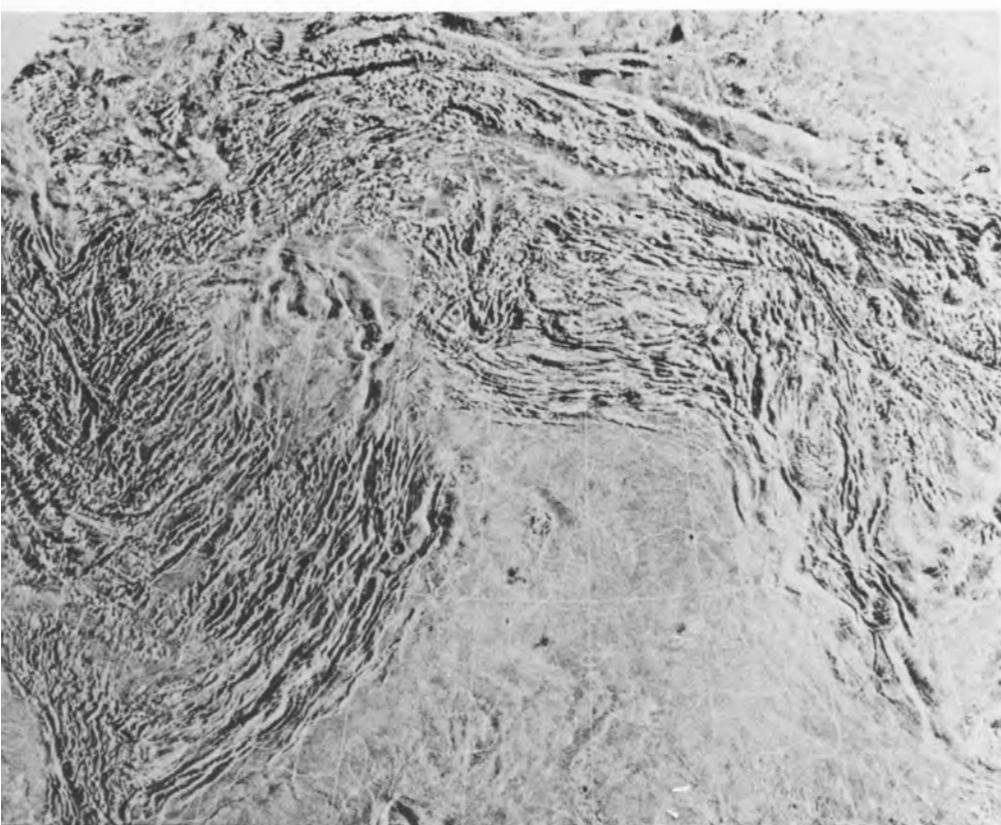
これまでこのような褶曲山脈が発見されなかったのは、アメリカの探査機パイオニア金星二号（一九七八年打ち上げ）のレーダー識別能力が百キロ程度という未発達な状態のため百キロ以内の物は発見できなかったからだ。

1 このニュース源は昨年五月二十二日

付の静岡新聞に写真入りで報道された記事で、いささか旧聞に属するが、一般人の関心の的にならず、依然として金星は地球とは全く異質な死の世界と考えられているようだ。しかし褶曲が発生するのなら地殻運

動もあるはずで、これは「惑星というものはみな同じだ」というアダムスキーの説を裏付けることになる。つまり地球と同様に金星も生きて呼吸する天体だということになるのだ。ソ連の発表した写真が正確だとすれば、金星の

共同通信社提供



偉大な文明の存在説をとなえたアダムスキーと春川正一氏の体験の信憑性を高める科学的な証明となる。

八年前の七九年初頭にはアメリカの金星探査機パイオニア金星1、2号が観測した結果、金星の空には雷が絶えず間なく光り、地表では不思議な白熱光が輝いている事実が発見された。NASA（米航空宇宙局）エイムズ研究所の科学者が同年二月七日に発表している。この記事も国内の有力紙に大きく掲載されたが、なぜか大衆は注目しなかった。

民衆は賢明である、と信じたいが、こと大気圏外の問題になると現実離れのした無関心事の域を出ないのだろう。昨年十一月には日航貨物機がアラスカ上空で巨大なUFOに遭遇して大センセーションを起こした。しかし後にアメリカの航空宇宙専門誌の編集者フィリップ・クラスが「あれは木星と火星の誤認だ」という信じられないほど不合理的な説を出したところ、国内各紙が一個人の説に同調し、「UFOはUSO（ウソ）？」という茶化し半分なタイトルで流した新聞もあったために、読者は簡単に誤認説を信じ込み、あの素晴らしい大事件も葬られてしまった。「あの物体は人間には考えられない物凄い推力を持ち、遠くの星から来た非常に高度な文明を持つ人々の宇宙船に間違いない」と寺内日航機長が断言しているという情報もある。

(久)

驚異の書「生命の科学」と円盤大接近

「生命の科学で驚くべき超能力者となった感動の実話と円盤の大降下事件！」

六十二年二月の東京月例会における講演全文

伊藤達夫

〈日本GAP松山支部代表〉

皆様こんにちは。ただいまご紹介をいただきました松山の伊藤でございます。本日この講演をする機会を与えて下さいました久保田先生と皆様にお礼を申し上げます。

一昨年の十二月以来、一年二カ月ぶりにここで皆様にお会いすることを大変嬉しく思っております。

司会者の方から松山支部代表という紹介がありました。この肩書きは私が地元で月例会を開催するときの仮のものでありまして、ひとたび松山の地を離れば平凡な一会員であります。皆様は東京月例会で学ぶのと同じように私も宇宙哲学を学ぶためにここへやってきました。

ただいま司会をして下さった佐藤智子さん(旧姓・佐々木)は、かつて松山支部で共に学んだ同志であります。その同志がいま東京本部の司会者として本部のために積極的に奉仕をしておられる姿を拝見し、大変嬉しく思っております。

おります。今後も東京本部のために活躍をされますようお祈り申し上げます。次第です。

一月早々に母が亡くなりましたが、その際には久保田先生をはじめ各地方支部代表の方々や有志の皆様から丁寧な弔電をいただきました。そのあたにかいお気持ちを決して忘れるものではないと思いません。本当にありがとうございます。

この二月当初には高橋和美さん(埼玉県川口市)が急逝されましたが、母も高橋さんも生前はGAPに熱心であっただけに、今頃は転生して別な肉体を得て新しい体験の旅に出発したことと思えます。宇宙の中でさらに宇宙的な向上を図られますよう願っております。

またUFOブームが到来?

さて十二月三十日付の愛媛新聞には

四面のトップに日本航空のジャンボ機がアラスカ上空で巨大なUFOと遭遇した記事が大見出しで掲載されておりました。その翌日には全国紙でも大々的に報道されたので、もう皆様のほとんどの方がご存知のことと思います。

このような信憑性の高い事件が世界中に広まることは、UFOの実在を決定的に裏付ける証拠として図り知れない価値を持つと言わざるを得ません。

そこには年頭にあたったのスペース・ピープル(注:別な惑星から来た人々)からの地球の人々にたいする明白な目的を持ったメッセージがあると私は受けとめました。皆様はこの事件をどのように受けとめられたでしょうか。

大晦日の愛媛新聞のコラムにはこの事件に関して次のように記されておりました。

「もしかすると、あすから始まる一九八七年は、未知との遭遇」をこの目で確かめられる記念すべき年になるかもしれない」

ない」

このコラムを書いた人は、新聞記者が持つ独特の鋭い洞察力で、来るべきUFOブームの前兆をこの事件から嗅ぎとったのかもしれない。その意味において一九八七年がスペース・ピープルの方々の新しい活動の年になることを期待したいと思えます。

振りかえれば今を去る十四年前、一九七三年七月に久保田先生の手で、わが国最初のUFO専門誌『コスモ(のちに『UFOと宇宙』と改題)』が発刊されたことはいまだに私たちの記憶に残っています。

この画期的な雑誌の発刊に呼応するかのよう全国各地にUFOがひんぱんに出現するようになり、中学生によって撮影されたおびただしい数のUFO写真が『コスモ』誌上に掲載されるに及んで、ここに日本における戦後初の大規模なUFOブームが到来するに至りました。そのブームのきつかけは

実に『コズモ』誌の発行であったことは疑う余地がありません。その偉大な業績はいまなお燦然と輝いております。ここに、三年後に再来が予想されるUFOと超能力のブームの時代にあつて、日本GAPの果たすべき役割はきわめて大きなものがありますが、その時期に久保田先生がますますお元気で活動の先頭に立たれて大活躍されるように大声援をお送りしたいと思います。

驚異的な力を持つ『生命の科学』

今日は過去三回にわたる私の講演とは少し趣を変えまして、これまでの松山支部の対外活動を通して知り合いになつた新しい方々の特異な体験や日頃の活動ぶりを紹介してみたいと思います。

これから私がお話する方々の体験をお聞きになりますと、どんな態度でアダムスキー氏の本を読めばよいのかという点や、どんな方法で本に接すれば内部の隠れた能力が出てくるかといった、いわばコツというか真髓がカキュイ所に手が届くようにおわかりいただけるのではないかと思います。

また、どういう考え方で日常生活を送る人をスペース・ビープルが援助し激励するのであるかという、日本GAP会員として最も根本的な点もおわかりただけだと思います。

これらの方々をつぶさな体験を通し

て私が再認識させられたのは、アダムスキー全集の偉大さ、とりわけ『生命の科学』が持っている人間の潜在能力を活性化させ現象化させる驚くべき力でありました。この本は私たちの予想をはるかに上回る物凄い力を宿していることもわかりました。それが事実であることをこの講演を通して皆様を知っていただきたいと思ひます。

どん底で奇跡的に見つけた一冊の書物

松山市内に坂本正広さんという三十歳代の男性がいらつしやいます。昨年四月頃から松山支部月例会に出席するようになった新しいGAP会員の方です。

この方は以前は大阪のコンピューター会社に有能な社員として勤めておられたのですが、いろいろ事情があつて会社をやめることになりました。

やめたあとは精神的にひどく落ち込んでしまい、放浪生活の後、奥さんと子供さんをつれて生まれ故郷の松山へ帰つてこられました。しかしなかなか仕事が見つかりません。そのうちさまざまな仕事に就かれましたが、どれもうまくゆかず、そのうち次第に精神的にも経済的にも追い込まれてきました。一応生活を維持する必要があるため、やむなく二十四時間営業のゲーム喫茶のバーテンダーになつたわけです。夜の九時から翌朝の九時までの勤

務です。そういう環境の職場ですから当然客層もよくありません。風体のよくない人や暴力団がたむろするということ最低の波動に満ちています。

そんな場所に十二時間もいて、ひどい波動をあげたあと、朝に自宅へ帰つてくると、疲れ果ててそのまま寝入つてしまいます。しかし三時間ほど寝ると今度は昼間の別な仕事にかかります。バーテンダーでは収入が少なないので別な仕事もするわけです。

こんな具合で人間として極限に近い境遇に追い込まれてしまい、おちぶれて精神的にも落ち込んで、絶望感にさいなまれながら、やつとつかんだ仕事も暴力団が入り出すという喜びのない最低の環境下で働かねばなりません。こういう状態が長く続けば、どんなに気丈な精神の持主でも早晚、心も体もポロポロになつてしまいます。この方も性根つき果てて、一時は真剣に死を考へたり一家夜逃げも考へたことがあるそうです。

人生に絶望しきつてしまい、今日死のうか明日死のうかと、毎日そんなことを脳裏に思い浮かべておられたのですが、しかし何か自分を救つてくれるものがあるに違いないという気はしていたのです。

そんなある日、外出した際にフト堀の内公園の中にある県立図書館になげなく入つて行く気になり、閲覧室へ入ると、不思議なことに何も考えない

のに無意識のうちに手がスーッと動いて書棚から何だか知らないが一冊の本を引っ張り出していました。

「これは何の本だろうか」と思つて見ると、それが『生命の科学』(アダムスキー全集第六巻)だつたのです。

なにげなく開いたとたん、体がワーツとのけぞりそうになつた。その本からすごいパワーが出ているのを感じて、体中がドキドキしてきた。

「これは大変な本だ」と感じたので、時間のたつのも忘れてむさぼるように読みふけたそうです。眼光紙背に徹するという真剣さで何時間も読みふけるうちに、一時は死をも考へた荒廃したこの方の心と体に、かつての若々しい生命力がふたたびよみがえつたのです。逆境に耐え抜く力と勇氣、生きる喜びが『生命の科学』を読んで湧き起こつたのです。

「自分を救つてくれるものはこれだ」と、その場ではつきりわかつたそうです。

『生命の科学』を毎日六時間ずつ読む

図書館で借りた本は二週間で返さないといけません。ところが坂本さんは二ヶ月も返却しませんでした。そしてその間に『生命の科学』を何百回も読んだということです。

しかし読むたびに高揚した気分にはなつたものの、その内容はよく理解で

きませんでした。何回通読してもわからない。「むづかしい。非常に高度だ」と思い、そこで、この本はただ棒読みするだけでは何回読んでも力はつかない。理解も深まらないから、もう棒読みはやめようと思った。

それで次にはどうしたかといえますと、一つの項目にじっくり目を通したあとで、書かれてある内容を自分なりのレベルでかみくだいて味わう。場合によっては一つの項目どころか、わずか三、四行であってもそれ以上先に進みたくないときには、その三、四行に書かれてある内容を自分なりに咀嚼して考えをめぐらせる。そのあとで内容をイメージ化してみる。映像化してみる(一例をあげると、第一課の肉体とその機能の項目であれば、自分の肉体内部の各器官のイメージを一つずつはつきり心の中に描いて印象を得るようになる)。そのあともう一度文章に目を通す。それでもまだよく理解できない場合はふたたびイメージ化する。そういう手順をくり返してゆくうちに文章では表現しきれない深いところが次第にわかってきたというのです。

そういう具合に決して急いで先へ進まないで、じっくりと腰をすえて忍耐強く学んでゆくから歩みが遅い。そのかわり毎日欠かさず実行した。最初読み始めた頃は仕事の合間に毎日六時間ずつ読んだそうです。

そしてこの方法で理解したことを生

活と結びつけるように工夫しました。生活と切り離しては意味がないという認識があったので、なるべく生活に生かすようにされたそうです。

手を見つめる練習で オーラ透視能力が出てきた!

坂本さんが初めて『生命の科学』に触れてから六カ月が経過した頃、ある日、第十課に述べてある手を見つめる練習をやってみました。しかし何も感じられない。毎日手をじつと見るけれども、いっこうに書かれてあるような印象がやってこないのです。

「自分にはこれだけの力しかないんだなあ」と思ったそうですが、それでもあきらめないで手を見続けていました。するとある日、手を見つめていると手のまわりにポーツと白いモヤのようなものが取り囲んでいるのがはつきりと見えてきたというのです!

「これがオーラというものだろうか」と思いながら、なおも見つめる練習を続けていくうちに、はつきりと色が見え出すのに二週間とかからなかったそうです。

そしていったんオーラの色が見え出すやいなや、この人のオーラ透視能力は爆発的な開花を見せたのです。天井を見上げると、空気が白い帯状になって、まるで川の流れのように動いているのが見えます。目にするあらゆる物が美しく光り輝いて見えるではありませんか。

せんか。

そのときの喜びはたとえようのないものでした。最初のうちは目がおかしくなったのではないかと思ったそうです。

透視、テレパシーの能力も出てきた

この体験と前後して透視(過去世、遠隔、予知)やテレパシーの能力もいちじるしい進歩が見られるようになりました。百五十万光年彼方のアンドロメダ星雲が手に取るように見えてくるそうです。

松山支部の月例会では遠隔透視の練習として、一人の会員に外へ出ていただいて、任意の場所で気楽に周辺を眺めてもらい、その居場所の光景を会場で透視する練習をときどきやっています。

坂本さんはこの練習でも驚くべき成績をあげています。そのときもある人に外へ出て自由にある場所へ行ってもらいました。その場所はだれにもわかりません。

坂本さんは心と体の力を抜いてリラックスしながら、さりげなく肩間に意識を向けて待っている、坂本さんの心のスクリーンになにやら白い丸い物が見えてきた。その白い部分に細長い棒状のものが動いてプスプスと当たるのが見える。「これはとんでもない見当はずれだなあ」と本人は思っていた。

ところが実際は見当違いでも何でもなくて正解だったので。外へ出た人は市民会館のすぐ近くの弓道場のそばに立って、丸的に飛んでくる矢がプスプス突き刺さるのを眺めていたのです。その光景を見事に透視したわけです!

別な人に外へ出ていただいたときには、前を走り去る車のバックナンバーまで透視したこともあります。

坂本さんは『生命の科学』に触れるまでは全くそんな能力はなかったそうですが、この本をじっくり研究してゆくうちに驚くべき内部の力が出てきたということなのです。どうか皆様、『生命の科学』にこれほど素晴らしい力が隠されている事実注目して下さい。ここに『生命の科学』が持つ、個人の潜在能力を活性化させる途方もない可能性を知ることができます。

テレパシーで他人を援助する

その後、坂本さんは自分の職場があまりにも想念レベルの低いのを残念に思っ、なんとか良い雰囲気にしたという願いを起し、来客のすべてに祝福の想念を送ることを実行されました。本誌で久保田先生がお説きになっていることを率直に実行されて、だれもが幸せになっっているイメージを描いたのです。

すると、どうしたわけか、それから

というものは良い雰囲気のお客さんばかりが店に来るようになったということです。たとえ暴力団の組員が店にいても、お互いに心の言葉ではなく、意識と意識の触れ合う会話ができるようになったということです。

この方はテレパシーの力を他人を生かす方向に應用しておられます。万物体性のフィーリングを高めるとテレパシーの能力が出てくると書いてあるこれは具体的にはどういうことなのだろうかと自分なりに深く考えてみたのです。

するとこれは「そのものになりきる」ことだということに気がついた。職場の喫茶店にいるとお客さんが入ってくる。そこで「あの人は自分自身である」という想念を起こすと同時に、その人と一体になったイメージを描くようにしていると、相手の思っていることが自然にパッとわかるようになってきたんです。特に相手が今何を求めているか、何を悩んでいるかが手に取るようにわかってくる。

そこで自分の理解している範囲で相手の要求や願望を実現できるような建設的なアドバイスをしてあげるようにすると、そのアドバイスがことごとく的を得て、とても相手から感謝されるということなのです。

このような宇宙的な潜在能力を引き出した『生命の科学』は、なんと素晴らしい書物ではありませんか！

またも『生命の科学』で大変化を起こした人

ここでもう一人の方をご紹介します。この方は成瀬円（本人の希望により仮名）さんという会社勤めの若い女性です。

昨年十月に松山市内の丸三書店本店でUFO写真展が開かれていたのを新聞で見ても異常な衝動にかられました。どうしても行かねばならないというか、まるで背中を何者かに押されている感じがして、翌日一番に会場へやってきました。自分とは別な力が働いているのははっきりわかったそうです。

そして会場で担当者からアダムスキー氏についての説明を受けてパネルに目を通してゆくうちに「これは本物だ」とピンとくるものがあり、早速GAPに入会の手続きをとりました。そしてアダムスキー全集や本誌ユーコンのパックナンバーを借りて読むうちに心境がガラリと変わってきたのです。

『宇宙からの訪問者』を三日間で二回通読すると、かつて経験したことのない高揚感に満たされた。続いて『生命の科学』を読んで、その内容にびつくりされました。人間の本质が実に簡明瞭に記されている。こんな本がこの世界にあつたこと自体が不思議としか言いようがないと感心しておられました。

そんなふうに感激の面持ちで新鮮な

態度で読むのですから、のみ込みが早い。それまでは仕事の上でイヤな出来事があると夜熟睡できないこともあつたのですが、それ以来ぐっすり眠れるようになったそうです。この方も初めて本に触れた当初は毎日四時間くらい徹底して読んだということです。

内部の意識に導かれて盗品を発見

ところがこの方は『生命の科学』を読み始めて三日目に自転車を盗られたのです。早速警察へ連絡したんですが、警官は「あんまり期待しないほうがいいですよ」というふうな態度です。ところが本人は自転車が見つかるような気がしたというんです。

『生命の科学』には、空間は宇宙の意識そのものであると書いてある。自分の内部の意識と空間は一体だから、自分は空間に満ちていることになる。だから、あの自転車は肉眼には見えないが、意識はすべてを見ることができから、いずれみつかるとにちがいない」と思つたんです。

それから二日後、仕事で外出した際に、ふと郊外電車の駅へ行きたくなってきた。そこで内部の意識の指導に身をゆだねる気持で駅へ行くと、松山港方面行きの電車に乗りたくなってきた。

それで乗っているうちに、港から四つ手前の駅に近づいたとき、ふと降りたくなったので、下車してホームの階段を降りると、そこに盗られた自転車が置いてあるではありませんか！ そういう体験が起こつてきているんです。

UFOの目撃が始まった

成瀬さんは本誌ユーコンなども読んで感銘を受けたらしく、バックナンバーをカバンに入れて、仕事先で関心のある人には「これを読んでみて下さい」と言つて渡しておられます。

そういう人ですからスペース・ブラザーズ（注）別な惑星の偉大な進歩をとげた人）の方々も当然彼女に関心を持つようになるとみえて、その頃からはしばしば自宅の上空にUFOが出現するようになりました。

昨年十二月の中旬、その日も仕事を終えて自宅に帰ると、『生命の科学』を一心に読んでいました。すると十時半頃になって、どういわけか急に洗濯をしたくなつてきたんです。それでベランダに出て洗濯物を干していると、すぐ近くの松山城の近くにUFOが浮かんでいるのが見えた。三時間ぐらい上空にいたそうです。

その目撃が皮切りになって、その後たびたび目撃するようになりました。初回の目撃から四日目の夜、今度は五機の編隊が出現し、これまた二時間半

にわたって滞空しました。そのうちの四機は終始編隊の形を保っていたが、別の一機は母船であって、それが彼女の真上に来ると、急に高度がグーツと下がって、巨大な横腹に沢山の窓が一列に並んでいて、そこから明るい光が漏れているのはつきり見えたということです。

最近ではこの一月七日の早朝四時頃、自宅のすぐそばに市内電車の踏みきりがあるんですが、そんなに早い時間に電車が通るはずはないにもかかわらず、不思議なことに信号がチンチン鳴り始めたというんです。それで不審に思って窓をあけてみると、真近に仰ぐ松山城のすぐ上にUFOがじつとこちらを見ているかのように滞空していたという事です。

円盤が頭上に大接近して メガネのフチが折れる

こうした一連の目撃のなかで、きわめつけの事件が昨年十二月二十六日と今年一月六日に発生しました。

まず十二月二十六日の事件を成瀬さんの言葉を借りて表現してみよう。「この日は夕方市内で友人二人と喫茶店でしばらく談笑したあと、自転車で帰宅の途につきました。いったん自宅の近くまで来たのですが、なんとなく買物に行きたい気持になり、スーパーへ行きましたが、買うものもなく、仕方なく牛乳を買って自転車で乗って帰

ってきて、自宅のそばの路上から見ると、伊予銀行の本町支店の方角から何か明るいオレンジ色をした大きな光がゆっくりと近づいて来るのが見えまして。

ひよつとしてUFOかな？と思って見ていると、楕円形をいびつにしたような物が私の家の方へ向かって来るのです(図1)。その物体の頂上にはま



ばゆく光る玉が見え、二つの楕円形をした窓から明るい光が漏れていました。マンションの一階の自転車置場へ自転車を入れようとしたとき、私が立っているちょうど真上にそれは停止しました(図2)。

見上げるとUFOはマンションの屋上すれすれぐらいの高さに停止してお

り、高度は二十五メートルぐらいだったでしょうが、真下から眺めるとUFOの底部は真つ暗でしたが、見上げてみると、底部の両端に突然ポツと小さい明かりがともったので、丸いクリューム色の球型着陸装置が二個はつきりと浮かび上がるのが確認できました。

残りの一個は暗かったので確認できませんでした。停止していた時間は二呼吸ぐらいでした。大きさは両手を広げたよりもやや小さく、見かけ上は一・三メートルぐらいに見えました。

UFOが真上に停止した直後、メガネの柄の左の方が折れているのに気がつきました(図2の矢印を参照)。同



時に指輪のリング上についていた金具もいつのまにか吹っ飛んでいたのです。

そのあとUFOはお城の上空に向かって一直線に上昇して行きました(図3)。



あまりのすごい光景に私は腰が抜けてしまい、階段の途中でへたり込んでしまいました。

翌日、折れたメガネを持ってメガネ屋さんへ行って修理を頼んだところ、担当の人がびっくりして、これは一体どうされたのですか？ まだ新しいメガネだし、特にこの折れた部分は丈夫に作つてあるので、よほどの異常な力が加わらない限り折れたりほしくないんですかねえ。どんなことをしていたんですか？と、しきりに首をかしげていました。

巨大な母船が出現して バックミラーの支柱が折れる

一月六日の目撃は城山の下で発生しました。県庁から平和通りに抜ける道路沿いで、近くに競輪場があります。夜はほとんど車しか通りません。

その日の夜七時半頃、この場所で母船らしい物を見ました。大きさは見かけ上、両手を広げたくらいの巨大な物体で、全体は鉛色でしたが、周囲がオレンジ色に輝いていました。約一分少

々目撃できました。

この途方もなく巨大な母船がゆっくりと頭上を通り過ぎた直後、私の自転車のバックミラーが折れてしまったんです(図4)。これには私も驚きました。どうしてこんな現象が起こるのか自分でも不思議でなりません

『生命の科学』を読む人の想念波は スペース・ピープルに同調?

こうした不思議な体験を通して成瀬さんはスペース・ピープルがいつも見

守ってくれていることを知って、私生活でもあまり無茶な事はできないことを確認したということです。

この一連の体験でわかったことは、『生命の科学』を読む人の想念波動がスペース・ピープルの波動と共鳴し合っていて、相互にケーブルが設定されやすいという事実でした。つまり『生命の科学』が媒体となって私たちとスペース・ピープルとの間に想念の交流ができてやすくなるということです。この書を学べば学ぶほど、かみくだけばかみくだけほど、その人とスペース・ピープルとの波長が合うようになるのです。

この本に毎日目を通して味わっているある主婦は「この本に目を通していると、すぐ心が落ち着いて、あたたかい、包み込まれるようなフィーリングが起こります。スペース・ピープルがいつも見守って下さるような気がします。」

この書物の編集には数多くのスペース・ピープルが参画されたことが感じられます。読んでゆきますと、いろいろな項目をそれぞれ分担されてお書きになったことがうかがえます。

しかもその編集に参画されたスペース・ピープルの次元がきわめて高いので、一つの課の中で高度な想念が融合し合い、なんとも言えない素晴らしい調和したリズムを生み出していることがわかります」と話しておられました。

この方は音感に優れているので、その持ち前の芸術的感性でこの本の目に見えない背景をとらえたのでしょう。

私はそれを耳にして、それほどまでにスペース・ピープルの方々がこの本を編集するために尽力されたことに胸を打たれたのです。

地球の人々がこれを学んで向上し、太陽系連合の仲間入りができるレベルにまで達するために、その基礎を与えて下さった宇宙の同胞愛にたいしてエリを正す思いにかられました。

目的を一つに絞ることが第一

ここまでお聞きになった皆様は、もうおわかりのことと思います。この方々は『生命の科学』を読むときの心構えが違うのです。甘い趣味的な態度や、いい加減な気持がひとかけらもありません。魂が入っています。しかも純粹です。

この人たちは目的を宇宙哲学一つに絞っています。巷にあふれる類似の書物にいろいろと関心を寄せていたのでは注意が散漫となつて目的を一つに絞ることができません。弓を射ようとする人にとつて的が二つも三つもあることは考えられないことです。そんな状況下では射手は弓を射るのを中止してしまうでしょう。そこには宇宙哲学を学ぼうとする人にとつての教訓が明確に示されています。

図4



つまり、どんなに素晴らしい書物や類似の教えが他にあったとしても、ある程度の発達をとげるまでは的を一つに絞って矢を射るということです。そこには学ぶ者として当然心得ておくべき徳性である「誠実」「貞節」「信念」が求められていると思います。

この方々から私が学んだなかで最も重要な点は「感性を磨くこと」と、テレパシー能力の向上でした。感性を磨くことはテレパシー+創造性の豊かな表現を意味しています。アダムスキー氏も「創造性の発揮」を重視していました。せつかくテレパシーの力があるにもかかわらず、それを才能の自由な表現と結びつけなければ、本人は自然の法則に目をつぶっていますから、人間の目的である「万物にたいする奉仕」ができません。そんなことではテレパシーを奉仕に使うことはおろか、他人にたいして宇宙の生得権を示すことすらできないではありませんか。

テレパシーを創造力と結びつける

芸術家や発明家、科学者はテレパシーによるインスピレーションを創造力に結びつけることによって青写真を現象化させる方法を応用しています。感性を豊かに表現して、それを建設的な奉仕の分野に応用するとき、本人の内部から驚くべき能力がわき出てくると思います。

アダムスキー氏がよく引用するトーマス・エジソンはきわめて感性豊かな人でした。彼は発明のことを一生懸命に考えて、それに行き詰まるとベッドの上に寝ころんで、十五分ないし二十分間、全身の力を抜いて、寛ぐように心を仕向けておりました。心の中から直面している問題をすべて放ち去り、まかせきつた気分でした。そして、自然がみずから動き始めるのじまかせていると、必ずパツと問題解決のアイデアやヒントが浮かんできたということです。

このエジソンの方法は現在東京月例会で久保田先生と遠藤さんが指導しておられるテレパシー練習と相通じるものがあると思います。特に、どこまで心と体の力(緊張)を抜き去るかが最大のポイントであります。この方法は単に超能力開発のためのテクニックではありません。より宇宙的な意味における「万物に奉仕するための発揮」「良きアイデアの源泉」ともなり得るのではないのでしょうか。その可能性は、明確な人生の目標を持ち、理想に生きようとする人々の前に大きく開かれています。

愛は法則を完成させる

しかし皆様、あのエジソンがあれほどに創造力を発揮して世界の科学技術の進歩のために多大な貢献をした背景

には、実に信じられないほどに単純な動機が隠されていました。それは「母を喜ばせたい」という簡単な動機です。自分が何かを発明するとエジソンのお母さんはとても喜んでほめて下さった。その母の幸せそうな喜んだ顔を見ることが彼にとつては最高の幸福でした。それで母の喜ぶ顔を見たいの一心でエジソンは発明に打ち込んだのです。

その動機は実に些細なものです。人を喜ばせてあげたい、幸福にしてあげたいと願う愛の想念があることを見逃してはなりません。このことは愛の想念がテレパシクなインスピレーションをわき起こさせ、驚くべき創造力を発揮することを示していると思えます。

アダムスキー氏は「愛はすべての法則を完成させる」と言っていますが、まさに愛の想念こそは万物の生きる原点であり、創造の原点だといえるのではないのでしょうか。

スペース・ピープルの援助があった?

話題は変わりますが、皆様方がこの二年間にわたり東京月例会でテレパシーの開発に力を入れておられて、着々と成果をあげておられる頃、私は四国にあって、久保田先生のご許可をいただき、なりふりかまわずに対外活動に打ち込んでおりました。今も(二月十日現在)松山の書店でささやかなU

FO写真展を開催し、一般人の啓発に努めております。

この二年あまりにわたる対外活動ははた目で見ても、がむしゃらとも言える活動でありました。この間、私なりに何度も不思議な体験をさせていだきまししたし、その貴重な体験が活動の支えになり、大きな励みになったのも事実です。

しかしながらその一連の宇宙的な体験ができたのは決して私のテレパシー能力がすぐれていたからではありません。むしろスペース・ピープル側の強力なご援助の想念波動にあったと思えます。それはあたかも粗雑なラジオでも強力な電波を送ってやれば、その番組を受信できるのと同じです。

対外活動に打ち込んでいたときの私は本来の力の百五十パーセントを出しておりました。今から思えば、三年前に父が亡くなり、精神的に落ち込んでいたとき、「このマイナスのエネルギーをなんとか宇宙的方向に転換できないものだろうか」と考えたのがその大きなきっかけでした。

いわばマイナスをプラスに転換させる際に出る火事場のバカ力が出たわけですが、それをスペース・ピープルの方々が見ておられて大変お喜びになりました。「あの男はいろいろな欠点もあるけれど、一生懸命に知らせようとして頑張っているようだから、なんとか援助してあげよう」と思われて具体的なご支



▲写真は坂本正広氏。昭和62年3月21日、松山支部大会にて編者撮影。

援をいただけたのだと思っております。しかし今後のスペース・プログラムに協力するためには、テレパシー能力の向上を含むなおいっそうの感性の練磨の必要性を痛感しております。

この一月早々に今度は母を亡くしましたが、これを人生の一つの節目と受けとめ、ふたたび心を新たにしていかにやり直す決心を固めております。

三十歳若返らせる書物

皆様、この本は(一冊の書物を示す)昭和三十二年に久保田先生が日本で最初に出された『宇宙船の内部』の日本語訳です(注||当時は『空飛ぶ円盤同乗記』という題であった)。昭和三十二

年十月十五日発行と記されています。私はこの本を十月二十一日に本屋で買って買いました。この本を見るたびに、あの少年のときのみずみずしい感動がよみがえってきます。

また、この本は(別な書物を示す)久保田先生が最初に出された『生命の科学』です。昭和四十年に発行されたものです。この本を書店に注文してから届くまでの待ち切れなかったこと!この本が手元に届いたときの嬉しさはたとえようありませんでした。

私が皆様の前でこの古い二冊の書物をお見せしたのは、古き良き時代を回想するためでもなければ、懐古趣味のためでもありません。ふたたびGAP会員としての原点に立ち、的を一つに

絞り切り、アダムスキー一筋に、アダムスキー全集一筋に、そしてスペース・プログラム一筋に生きたいという私の決意を表現したかったからです。

思いますに皆様方がこのアダムスキー全集を真面目に研究して生活に生かすならば、だれでも肉体と容貌を三十歳ぐらい若返らせて青年のみずみずしさを復活させることは十分に可能であると思えます。五十歳の人は二十歳の若さを、八十歳の人は五十歳の若さと美貌を保つことができるはずですよ。

最近私はテレビで百歳のアメリカの男性が楽しく野球をしている姿を見ました。その人は七十歳ぐらいにしか見え、子供のような身のこなし方をしていたのです。また日本人で六十歳でありながら三十歳の若さを保っている人を私は知っています。おそらくこの人々は『生命の科学』を読んではいないかもしれませんが、それでも想念の持ち方によってこれほどの若さを実現し、かくしゃくとして働いているではありませんか。

それならばスペース・ピープルから与えられた最高に宇宙的な書物を学ば私たちのなかから、この人々以上の生きた実例を示す人々が現れて当然ではないでしょうか。

宇宙哲学による人材の輩出を

この日本GAP会員のなかから、そ

してこのアダムスキー全集を生活に生かす人々のなかから宇宙の法則の表現者たる人材が次々と出現することを願わずにはいられません。そのような人々が私たちのなかから輩出してこそGAPは社会に深い感銘を与え、大きな影響を及ぼすことができるのです。

アダムスキーの宇宙哲学は人間の潜在能力を活性化させるに足るリズムカルでダイナミックな躍動性を秘めています。自然の法則を学んだ皆様のなかから、持てる才能を思う存分表現することによって、偉大なるプリマドンナ、偉大なる画家、偉大なる発明家、偉大なる音楽家など、大宇宙に奉仕する素晴らしい人材が輩出することを心から願う次第です。

昨年の十二月中旬頃から松山上空に連日のようにUFOが出現するようになりました。こうした現象の発生にもなつてUFOに関心を持つ人々の間に正しい知識と情報を求める声が高まることが期待されます。その人々にUFOと異星人に関する正しい知識とアダムスキー氏の体験を教えてあげることは私たちに課せられた義務であります。私もうかうかしてはおられないのです。久保田先生の代理として、松山支部代表としての責務を果たし、日本GAPのより良き未来のために頑張りたいと思えます。ご静聴有難うございました。

八王子市でUFOを撮影

見たいという熱意にこたえてネガに現れた驚くべき物体

ピラミッドパワーに熱中

今から五年前「不思議大好き少年」の私は、当時静かなブームとなっていたピラミッドパワーのとりこになっていました。

いくつも小さなピラミッドを作っては、中にタバコやいろいろな食品（ミカン、リンゴなど）を入れ、その変化に一喜一憂していました。

ピラミッド熱が高じてくると、雑誌の広告に載っている大きなピラミッドが欲しくてたまらなくなり、「あの中に入ってみよう。あの中に入って瞑想したらどんなにいいだろう」という思いつきから（当時瞑想などしたことはなかった）、その頃住んでいた会社の寮の空き部屋を特別に貸してもらい、アルミパイプで出来た底辺百八十センチの大きなピラミッドを購入し、磁石で方位を正確に合わせてセットしました。

そんな私に好意的な寮友たちの寝静まった深夜、私はピラミッドの中に入りました。

正座して、そっと目を閉じて五分、

降 籟 和 彦

十分たつた頃、私の瞼の裏に濃紺のスクリーンが現れ、金色の光がぐるぐる回り出しました。

「おもしろい。これはいったい何だ！ どういうわけだ」という思いから、次の日も次の日も夜ふけにピラミッドの中に入って座ることに冒険的な楽しみを覚えたのでした。

後日読んだヨガの本に書いてあるクンダリーナが上昇し、真っ赤なエネルギーが体の中に充滿したのを実感し、私はそのとき「人間で何だ、何なのだ、人間の能力にはわれわれの通常の考えではとても説明できない、おもしろい事が沢山あるぞ！」という実感を得たのです。

そのときの「人間でいったい何だ？」という好奇心が、私にとって今日に至るまでのささやかな事件にめぐり合うための原動力になってきたように思います。

それは家で見たTV番組から始まった

アダムスキーを含むUFO関連の本は当然私の中で大きな興味の対象となりました。書店に並べられている本はほとんど手に取って見たり購入したりしました。

しかしUFOに関してはピラミッドパワーと違い、自分の中に実体験がなかったため、本を読んでもいまひとつ確信を持つには至らなかったような気がします。しかしUFOを見たいという欲望は持っていました。

三年前には私も結婚し、妻とアダムスキー全集第一巻の『宇宙からの訪問者』を前にして、UFOや宇宙人に関する話をしたのですが、ほとんど会話にはなりませんでした。

「UFOがデザートセンターに着陸したとき、金星人オースオンがアダムスキーに会ったんだってさ」

「あなた、ほんとにそんなこと信じているの？ 大丈夫？」

「ほら、この絵がそのオースオン氏だ。見てみるよ」

「あらこの人、女の人？ えっ、男！ 頼りなさそうな宇宙人ね」

とまあこんな調子で、この件に関しては私だけの世界というわけでした。

そして一昨年の九月、私は東京から転勤になり、川崎に住むようになりました。そして一年が経過した去年（六十二年）十二月にUFOの写真を撮影することになった一連の出来事が始まったのです。今まで溜めてきた宇宙やUFO

Oに関する気持ちが一気に外に向かって動き出したという感じです。

UFO contactee 誌を発見

九月の十日前後、私はテレビ番組で東京神田にある喫茶店が紹介される番組を見たのです。『シャンバラ』という名のその店には、そこを訪れた人が自由に見ることのできるUFO関係の本が数千冊並んでいるというわけですが、学生時代、お茶の水に通っていたこともあって、すぐにでも訪ねたい気持ちが起り、数日のうちにその店へ行きました。

アダムスキーをはじめ、さまざまなUFOの本が並べられ、いくつかの写真集もありましたが、私の目を引いたのはその名も「UFO contactee」。初めて見る雑誌でした。

パラパラとページをめくってゆくと、「私は別な惑星へ行ってきた！」という記事が目に入りました。

「何だこれは？」と、いつもの好奇心が異常にわき出てきて、次の日もその店に行き、「UFO contactee」94号を読みかえました。

「春川正一という人物に会いたい！ 会って話を聞きたい！」と思い、ページをめくってゆくと、二百回を迎える東京月例会を記念して日本GAP総会が銀座ガスホールで開かれるとの記事があり、よく見ると、その会で春川と

いう人物が『私の別惑星訪問体験とアダムスキーの真実性』というテーマで講演すると書いてあるではありませんか。

「行こう！」

意志は即決定されました。自分はまだGAP会員でもなくせに、何かその場で自分の内の「人間て何だ？」という問に対する答の糸口がみつかりそうな気がしたのです。

春川正一氏の講演に感動

九月二十一日、私は期待に胸をふくらませて会場に行き、大変図々しくも前から三列目の席に座りました。

まずUFOに、アダムスキーに真剣に取り組んでいる人がこんなにもいるのか！という驚きを感じながら、久保田先生のお話の中で、私の年齢を上回るほどの期間、この活動に情熱を傾けてこられたとことに深く感動し、またこの会に参加している方のまじめな姿勢が先生のお話の中からうかがえて私の志の未熟さを痛感しました。

さらに春川氏の驚くべき話の内容をお聞きして、私は人間のウィル・パワーとでもいべき願望達成のエネルギーの強大さと素晴らしさを感じました。またそれを無意識に自己抑制してしまっている自分からの脱皮のむずかしさをも同時に感じました。物事をまず信じてみるというタイプの私は、春川氏の話は

すでに真実だと直感したのです。

毎夜空中へ想念を放射

次の日から毎日、夜、春川氏の講演の中で話された、最初にUFOを見たときのやり方を実行しました。つまり毎夜家のベランダに出て、夜空に向かって心の中で叫んだのです。

「私は地球人の降旗ふたはたです。もし私の想念が地球に来ている宇宙人の皆様に届きましたら、宇宙船の光を私に見せて下さい」

これを毎晩続けました。日中も外出する際は必ず空を見上げて、この思いを空に送り続けました。

そして十一月二十三日の夕方、ついに東横線の武蔵小杉駅で、西の空に静止した銀色に強く輝く光を見たのです。それは約十秒間ほどでした。空中に突然現れ、無意識に空に目をやった私に強烈な印象として映りました。

心は高揚し、心臓がドキドキと鼓動を早め、ちょうどあの映画『E.T』のエンディングの心の高まりに似た気持ちを味わいました。それ以来たびたびこの未知の光を体験することになったのです。

二回目は十二月四日午後四時二十分、港区汐留で渋滞中のタクシーの中から東京タワーに向かう光体を目撃。そして三回目の十二月十七日、はからずも私は妻と二人でUFOと確信できる光

を目撃し、それを写真に写すことに成功したのです。

UFOの撮影に成功！

当日私と妻は山梨県富士吉田にある浅間神社に午後二時三十分頃参拝し、今年五月に出産予定のわれわれの子供が安産であることと、今年はUFOに数多く遭遇できることを祈願しました。この時点では私の二度のUFO体験を妻に話したこともあつて、妻もUFOについて前向きに考えていました。

その後市内にしばらく滞在し、河口湖インターから中央高速に乗り、大月から本線、新宿方向に入り、談合坂サビスエリアで約三十分ほど休憩し、出発直前に同駐車場でオレンジ色の光が金網のフェンス越しに現れ、約二十秒ぐらいで消えました。

しかしこの光は近くのオレンジ色の街灯と色調が似ていたため、いまひとつUFOだといきれないまま興奮して出発しました。

ところが八王子市に入ったあたりから前方右手、東京方向に白銀色の強く輝く光（妻にはオレンジ色に見えた）が見えてきました。

車内では二人で大騒ぎ！
「あれは何だ？ UFOだよ！」
「そう、UFOだわ！」

八王子料金を抜け、石川サビスエリアで車をとめて、朝、富士吉田に

向かう途中、談合坂でたまたま買ったフジフィルムの使い捨てカメラで南から北に移動して行く光体を三枚撮影しました。

石川サビスエリアには大勢の人がいましたが、光体は四つから五つの光で、白銀色、オレンジ色、赤い色等で、大変大きい物でしたから気付いた人もいるかもしれません。そして後日現像して出来たのが次頁の写真です。

初め同時プリントで写真屋さんをお願いしたので、UFOの写っている三枚はプリントされませんでした。しかしネガを見ると直径一ミリほどに小さくUFOが写っているのを蛍光灯の光にかざして見つけ、妻と小躍りして喜び、早速写真屋さんで拡大してもらったのがこの写真です。

一枚目は光点が一つ写っています。二枚目は光点が二つ、そして三枚目ははっきりUFOが一機写り、その右に円型の物体が一つ写っています。

その後はからずも春川氏に会うチャンスにめぐまれた私は、早速この写真を氏に見てもらい、UFOとの確信を得たのです（表紙写真は三枚目のネガに写っている左側のUFOを約百六十倍に拡大したもの）。

知らせる運動の手助けをした？

私はこの使い捨てカメラを後に二回購入し、夜、月や星、そしてUFOを

▲昭和61年12月17日、筆者が東京都八王子市内の石川サーブエリアで撮影したUFO写真。画面の左側と中央右寄りに各1個の物体が写っている。本号表紙写真はネガに写っている左の物体を約160倍に拡大したもの。

十枚ほど撮影しましたが、いずれも写りませんでした。この三枚に写ったUFOは、あまりにも鮮明に強い光で写っており、夜間これほどあざやかに感光することはあり得ないと思われまますので、やはりUFO側の特殊な力によるのではないかと思えます。

私はこの写真を撮ることによってUFOの存在を心ある人たちに、より強固に確信させるためのお手伝いをしたのだと思っています。したがって沢山の人人々にこの写真を見ていただければ幸いです。

この宇宙船の中には高度に成長をとげたスペース・ピープルが乗っているでしょう。そしてわれわれ地球人にこのUFOに象徴される素晴らしい未来を選択する力を持っているのだということを知らせているのだとも思えるのです。アダムスキー全集もまだ二冊しか読まない私ですが、この写真の持つ意味を以上のように考えています。

使用したカメラはフジフィルム使い捨てカメラでASA100、シャッターは1/500秒、焦点距離20mm、ネガに写ったUFOの直径は0.8mmですから、UFOの大きさを計算すると、カメラからの距離が五百メートルの場合で直径二十メートル、一キロメートルの場合で直径四十メートルあることとなります。

UFO写真とシンクロニシティ

上の写真には右端に●のような物体が写っています。目撃したときは非常に明るいオレンジ色の光だったので、現象してみると図のような模様の物体に写っています。初めは何を意味しているのかわからなかったのですが、これは易の陰陽のシンボルマークに大変似ていることに気がきました。しかし正体はいまもってわかりません。月でないことははっきりしています。



易の本によると、この●と雲の図形の組み合わせは、志の合った人々と一つの事を始める好機という意味だそうです。

です。私の場合は気の合った友人と観測会等を持ち、UFOについての話をする事かと感じています。

その後のUFO目撃体験

十二月二十日、自宅のベランダで午前〇時三十分、私と妻は日課になったUFOへの呼びかけを行っていました。すると西から東方向に時計回りの弧を描きながら強く輝く光体を約二秒間目撃。光体の大きさは五十円玉を手にとっていっばいに伸ばしたくらい大きかったです。

この日も春川氏の講演で聞いた呼びかけの方法を妻と二人で約十分間行いました。そして視線と気持を東の空にゆったりと向け、リラックスしていると、光体が出現しました。

心は高揚し、胸のあたりが熱く感じられました。その気持は先に述べました映画『E.T』のエンディングの場面に、E.Tの乗った宇宙船が空に消えた後、大変美しい虹を彼らが子供たちへのプレゼントに空に描く場面がありますが、その場面で味わった、愛に満ちた心の高まりに大変似ていたように思います。

UFOが空から消えた後、すぐに私たちはもう一度UFOを見たいと思い、呼びかけを開始しました。すると約三秒ぐらいで今度は東の空を三分の一ぐらい明るくした閃光が三回ありました。

光の色は青で、UFOが消えた方向の窓に青いフラッシュをたいたという感じでした。

この日の目撃で特筆すべき点は、写真を撮った日もそうでしたが、UFOの色が私と妻とは違って見えたという事です。私は白銀系の少し黄色がかかった色に見えましたが、妻はオレンジ色の強く輝く色に見えたといっていました。

この点については後日春川氏にお聞きしましたところ、「UFOを構成している物質から発している光は周波数帯域が広く、見る人の視神経に最も強く感応する帯域が見える」のだそうです。

はからずも私が春川氏とお会いできたのは、ふとした巡り合いから出会った人づてに氏の知人を紹介されて出会うことができたのです。久保田先生もご紹介されているように、すぐれた能力を身につけた方で、胸のチャクラに向かって強くしかもおだやかなエネルギーを感じさせる人でした。みずからの努力によつて得た豊富な知識と体験から相手を勇気づける愛の力を持った人で、私も氏から多くの事を学ばせていただきました。

〈私のUFOノート〉

一月十三日、自宅にて。早朝インスピレーションで目が覚めてベランダに出る。午前五時二十三分。前日の雪が

やんで一面曇り空で、北北東の曇り空に五百円玉大の白銀色の光体が大きくなったり小さくなったりする。約一分間。カメラで五枚撮影したが写らず。

一月二十二日、午前〇時五十分。自宅ベランダから北東方向下から上に向かう光あり。白銀色。同日八時五十分横須賀線新川崎から約五キロほど品川寄りの地点で、電車の中から西南西の方向に二本の長い雲の柱を目撃。

一月三十日、午前〇時三十分。自宅ベランダから私と妻、私の弟の三人で観測。南から北へ向かう乳白色のラグビーボール型のUFOを約五秒間目撃。

二月一日、午前三時。妻と玉川に行く。丸子橋から上流一キロの地点で西北西の空に光体を発見。大きくなったり小さくなったりする。約三秒間目撃。写真写らず。

ミラクルワートの素晴らしい効果

昨年九月に読んだUFO contactee 94号から半年の間に大変多くの人に会い、UFOを見るチャンスにもめぐまれた私の経験は、アダムスキーのいうミラクルワード、つまり私にとっては「UFOを見たい」というその一言だけで実現したように思います。次から次へとUFOに興味を持つ人やコンタクトイーに会うことができ、また私の疑問点も解決してゆきました。

私が心がけていたのは「UFOを見たい」という気持を一日に何回となく思い口にすることだけでした。もう一つ「UFOは必ずいると思う。しかし私には見れないだろうな」という気持が私にもあったのですが、どうやらその気持というのは、顕在意識が「見ることが出来る」という意志を封じ込めてしまうこと、いわば無意識の自己否定ではないかと思うのです。

私はその解消法として瞑想やさまざまな方法を試みました。要は潜在意識が発現しやすい状況を自分自身につくる方法をみつけることではないかと思うのです。私は母音「アイウエオ」をなるべく大きな声で発音する方法を試みています。この方法は春川氏からお聞きしたものです。

以上、私の浅薄な体験を書かせていただきました。地球が素晴らしい未来を選択するために、スペース・ピープルが、UFOが多数地球人が知り、意識を変えてゆくために私たちは多くのこの問題に関する共通体験を持てる仲間をつくらなければならないと思います。GAPの皆さん、頑張ってください。私も皆さんといっしょに歩みます。



語りかけたならUFO出た

西丸 震 哉

〈食生態学研究所所長〉

次の妙なものの、エタイの知らないものはUFOだ。見た見たという人がいる

なら、そんなバカなこと否定してはならない。チョウがとんだ、そんなことがあるかといったら自然科学は成立しない。ただし目立ちたがり屋やウソつきがデタラメをいって人の注目を

得ようという種類のものを見きわめて排除しなければならぬが、これは意外と困難だ。

いちばん望ましいのは自分で見てたしかめることなのだが、こちらが主導権を持つていなくて、相手は何物だかわからず、どういう目的を持つているのかも見当がつかなくて、どこにいるのか、どこへ行ったら出

て、人に見られるような行動をとるからには、存在を知らせようという意識を持

ら手をふきながらすつとんできた。「何が出た? UFO?」ア、ホントだ、ワア大きい」

高空をとぶジェット機くらいの速さで鹿島槍の右肩あたりでななめに下つていく。夕日が山のむこうに沈んだあとにあかね色の空をバックにした橙紅色の輝きは、太陽があつち側だから反射光ではなく、このグ円体自体が発光していることになる。

る。知的好奇心がなくなつたら生き甲斐がぬけ去つたも同然だ。

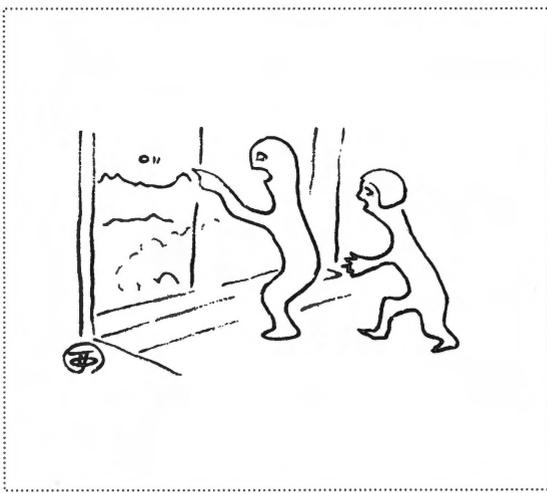
UFOを操る生物はテレパシーの能力が絶大だという知人がいるので、当方はあまりそういうものに馴れていないが、むこうが大それた受信能力を持つているのなら、メチャクチャやつても通ずるはずだ。ダメでもともと、バカバカしいと笑つて手をつけない人には少なくとも扉は開かれな

い。北信の小川村の、海拔九百七メートル地点、雑木山の頂上に山小舎を建てたあと、この窓から西の空がよく見通せるので、見えな

い相手に向かって語りかけた。「やたらとほうぼうに出て、人に見られるような行動をとるからには、存在を知らせようという意識を持

ら手をふきながらすつとんできた。「何が出た? UFO?」ア、ホントだ、ワア大きい」

高空をとぶジェット機くらいの速さで鹿島槍の右肩あたりでななめに下つていく。夕日が山のむこうに沈んだあとにあかね色の空をバックにした橙紅色の輝きは、太陽があつち側だから反射光ではなく、このグ円体自体が発光していることになる。



その後、針ノ木峠小屋で主人たちと話をしていたら、私の見たテアイのもの

（信濃毎日新聞、昭和六十二年三月七日付夕刊より転載。許可済。絵も筆者）

UFO over Yokohama Harbor

横浜港上空のUFO

日本GAP会員・大岡葉子さん（横浜市）が昭和60年1月1日、横浜港へ遊びに行き、コンパクトカメラで友人に写してもらったら、背後の上空にUFOが写っていた（下写真内矢印）。上の写真は拡大したもの。春川氏によると正真正銘の円盤であるという。



別な惑星の偉大な人類と文明

質疑応答(連載第6回)

ジョージ・アダムスキー / 久保田八郎訳 (文中の「注」は訳者による)

人工衛星がG・Aの体験を傍証

問01 宇宙空間の発見事に関する人工衛星からの報告を、あなたがブラザーズ(注||友好的な異星人)から学んできた事とどのように比較しますか。

答 人工衛星のデータが公開されるにつれて、一九五三年に出された『空飛ぶ円盤は着陸した』(注||アダムスキーの第一著)の中の私が執筆した部分の情報と、一九五五年に出された『宇宙船の内部』に含まれている情報、およびこの質疑応答のシリーズで私が伝えてきた情報は、正しいものと確認されたつづつあります。次の記事は刊行された報告書類から少数抜粋したものです。

一九五八年四月八日付ロサンジェルスタイズ紙より。
「四月七日、マサチューセッツ州ケンブリッジ(AP)
アメリカ最初の人工衛星エクスプローラー1号によって得られたデータに新しい公式を応用しているハーバード大学の一天体物理学者は、地球の三百六十六キロメートル上空の大気は先行衛

星エアーフォオースの探査が示したよりも十四倍も濃密である」と今日報告した。スミソニアン天文台の副台長、セオドア・E・スターン教授の発見は、初期のスプートニク(注||一九五七年十月四日にソ連が打ち上げて世界を驚倒させた世界最初の人工衛星で、超高層大気の密度と温度に関する情報を得た)が得たデータにもとづく超高層大気の密度の予報を確認している。
「一九五七年十二月三十一日報告」
スターン博士、ジハード・シリング博士、B・M・フォルカー女史によってなされたスプートニクの調査は、スミソニアン天文台によって十二月三十一日に公表された。

三人は、地球上空二百二十キロメートルの大気は、エアーフォオースがすでに示していた結果よりも九倍濃密であると指摘した。このエアーフォオース先行衛星の「模範大気」を、かつてないほどに綿密に考えられた研究調査の結果であると述べながらも、スターン博士は、『これは、今や超高層の実際の密度を過小評価していたと思われる』

と論評した(注||エアーフォオース先行衛星というのは第二次大戦後、アメリカがナチスドイツから押収したA4(V2)ロケットを意味すると思われる。これは一九四六年五月十日にニューメキシコ州ホワイトサンズ試験場で第一号機が打ち上げられて以来、超高層大気、その他の条件を探査する目的で次々と打ち上げられた)。

次は一九五八年三月二十七日付ロサンジェルスタイズに掲載された大統領(アイゼンハワー)科学諮問委員会による『大気圏外への序章』から引用したものです。

「宇宙空間の縁に達した人工衛星が接する環境は、地球の標準によればカラッポにすぎないが、実際はこの「カラッポ」の宇宙空間にはエネルギー、放射線、急速に動く多種類の粒子に満ちている。ここでわれわれは地球を動かしている太陽によって支配されている活動する媒体である一種の荷電プラズマを探査するものである。

科学者は太陽から出る荷電物質の放射と何らかの関連のある磁場と電流の巨大な系統が存在するという間接証拠を持つている」

一方、ミシガン州ロイヤルオークの惑星間財団の八月号ニューズレターは次のように述べています。

「地球の大気圏内には酸素がないということが、分光器調査でソ連の人工衛星スプートニクが行った観測によって

最近発見された」

地球の大気中には人間を含むあらゆる種類の生命体を支えている酸素があることを私たちは知っていますので、右の声明は特に興味深いものです。ここで、ブラザーズから私に与えられた情報——それは問05に含まれているものですが——にたいする立証があります。それは次のとおりです。

「惑星の電離層の外側から惑星をとりまく大気状態を正確に読みとることはできない」

問02 宇宙船の推進法に關してもっと技術的な情報を伝えることができますか(注||この場合の宇宙船は別な惑星から来るもの。俗にUFOと呼ばれる)。

答 私がすでに発表した以外の事柄は言えません。私はそれらの宇宙船に乗って飛んでいるあいだに作動している船体を見ましたが、その作動について詳細な情報を伝えることはできません。普通の機械工が飛行機に二、三度乗っただけでその飛行機のエンジンの作動法を説明できないのと同じです。

次のことを私は知っています。つまり彼らの宇宙船のパワーは宇宙空間から吸い寄せられるという事で、これは私たちが肉体を生かし続けるために呼吸をするのと同様です。いずれの場合でも大自然の諸要素がパワーまたはエネルギーに変えられるのです。

私は一本の樹木が稲妻に打たれて燃えるのを見たことがありますし、ある

瞬間に地球上のあらゆる発電所で生じるエネルギーよりもっと多くのエネルギーが一つの稲妻で消費されることも聞いたことがあります。

大自然と調和して生きている別な惑星から来る人々は、このエネルギーを利用する方法を学んでいます。しかし地球人は互いに敵対し合っているのです。彼らはそのプロセスの詳細を私に説明しませんでした。

タバコの箱ほどの装置が平気で悪事を行う人間の手にかかると、このパワーでもって形あるものを跡形もないほどに破壊するかもしれないことを思えば、このような知識を私たちに伝えるのを彼らがためらう理由は理解できません。

『宇宙船の内部』（アダムスキー全集 第一巻 『宇宙からの訪問者』に収録）に述べましたように、地球の科学者はこの目標をめざして研究しています。それでいつかは宇宙のこの力を利用する方法を発見するでしょう。しかしその場合の利用法は地球人の責任にかかっています。

したがって大自然がその秘密を私たちに明かす前に、私たちは思いやりに満ちた友情の道をもっとはるかに前進していることを期待しましょう。

問83 地球に影響を与えるかもしれないような接近する諸変化について、地球の科学者はどのようにしてわれわれに警告するでしょうか。

答 ラジオ、新聞、種々の刊行物などを利用してでしょう。国際地球観測年の諸発見の科学的報告が公表されているように、この頃は驚くべき量の情報が人々に伝えられています。

だれも知っているように、この国際地球観測年の調査は六十七カ国の一流科学者によって行われており、彼らは私たちの惑星の詳細な研究に打ち込んでいます。彼らは完全な協力のもとに共同で働いており、地球の核の組成から、軌道を回る人工衛星より得られるあらゆるテーマに関するデータを交換しています。全世界はこうした学者たちに感謝する義務があります。というのは科学のために彼らは国籍という障壁や政治上の争いのすべてを無視しているからです。

私がかれまでに読んだ最新かつ最も完全な報告書の一つは、小型のポケット版『宇宙空間の中の世界』です。これはニューヨーク三番街のデル出版社から出ており、アメリカでは三十五セントで売られています。

この本は一九五八年四月に版權を所有しており、当然のことながらデータが集められるにつれてより多くの情報編集されつつあります。しかし私はこの本を教育的有益なものとして推せんし、先になつて公開される情報類を理解して読めるようにするための良き土台となるようにおすすめます。

問84 ニコラ・テスラは金星人だった

のですか（注）テスラはセルビア生まれでアメリカに帰化した電気工学者。エジソンの研究所で手伝ったあと、多相交流による回転磁場の中で回転子に誘導電流を発生・回転させる誘導電動機の原理を一八八八年に発見。有名なテスラコイルと呼ばれる変圧器を考案し、一九四三年に他界した。彼はみづから金星人の生まれ変わりだと称していたという。

答 私の知る限りでは違います。少なくとも彼は宇宙船で地球へつれてこられたではありません。テスラは地球で生まれました。しかし彼が電気工学の分野で過去の体験の記憶を保つてきた可能性は大です。これは異常なことではありません。その実例は異様な知識でもって世の中を驚かせる天才児に見いだされるからです。

それとも、電気に深い関心を持つていたテスラは、『宇宙の知識』という径路にそつて自分の想念を導くことにより、その広大な知識の海に同調した可能性もあります。宇宙はあらゆる知識を含んでおり、あらゆる疑問に解答を与えますので、彼は自分の心を開いて宇宙的な源泉から電気の問題に関する情報を得たのかもしれない。

これは実際にはテレパシーとして知られる現象です。そして（知つてか知らずか）多く分野の科学者にしばしば応用されており、またあらゆる職業の人々にも用いられています。これを自

然の贈り物と認める人々は生活のすべてに應用しており、また自分の内部でこの能力を発達させようとしている人たちもいます。

「アシユター」は心靈的な 仮空の存在

問85 あなたはアシユターについて聞いたことがありますか。

答 はい何度もあります。私が知り得た限りでは「アシユター」は心靈的な径路だけで通信しています。彼は数百万の宇宙人の司令官だと称し、約束をし、未来の事を予言し、善悪を語り、脅し、分け隔てなどをしますが、どれも私がスペース・ピープル（注）友好的な異星人）から学んだ事柄と一致しません。私は肉体を持つ宇宙旅行者としてのアシユターの存在を、私が会っているスペース・ピープルから確証されたことは全然ありません。

多数のアシユターの「メッセージ」なるものが私宛に送られてきましたが、それらを注意深く読んでみますと、あちこちに少しばかりの真理が散見できます。しかしこれはいつの場合もそうです。というのは、ニセモノというのは真実がなければ存在し得ないからです。その真実をまねてニセモノが作られるのです。まじめに真実を追求しながら、しかも心靈的な基盤よりもむしろ実際のな基盤の上にそれを追求しようとする人々の心に、こうまで多く

の混乱をひき起こすのは、こうした(アシュターなどのメッセージに) わずかばかりの真理が存在するからです。もし何か宇宙的であるとすれば、それは融合的であつて、分裂はしないはずで。

私たちの太陽系以外の惑星に私たちよりも高度に発達を上げた、またはひどく程度の低い人間が存在することを私は否定しませんが、なぜわれわれはわれわれを助けることのできない人間の「指導」に従わねばならないでしょう? 私たちは現在互いに信じ合えない態度をとっているのですから、たしかに私たちは宇宙へ手を伸ばしてこれ以上自分たちの分裂状態に何かをつけ加える必要はありません。

私は一つの想念波動としてのアシュターの実在を認めることはできません。これは地球の過去と現在の文明(複數)から出た想念と一致したもので、それだけのことです。

こうした想念は、何が通過しようとも自分の心を解放して感受する人にキヤッチされることがあります。だからこそ私たちは自分が心にいだく印象について常に選択するべきなのです。このことは私の書『レバシー開発法』(アダムスキー全集第五巻)に簡潔明瞭に説明されています。

問86 ある作家たちが書いているデロの世界についてブラザーズは何と言いましたか(注)デロというのはアメリカ

カのアメイジング・ストーリー誌一九四五年三月号に掲載されたR・B・シェーパーの『私はレムリアを忘れない』に出てくる地球の地下世界に住むという半人半獣の生物で、超高度な科学装置を駆使して地表の世界を苦しめるといふもの。

答 ブラザーズは地球の内部に人類が住む事実はないと強調して述べていました。この点ではいかなる惑星の内部でもそうだと断言しています。今日私たちが有する科学装置をもってすれば、こんな地下人間の存在が探知できぬはずはありません。

いいですか、この国際地球観測年のあいだ、世界の科学者は地球の溶けた核の状態を読みとることのできる装置を用いているのです。この観測年の調査は地球上のあらゆる部分で行われていますので、こうした地下の「植民地」が未発見のままになるとは考えられません。

ちよつと考えてごらん下さい。人間は空気がなければ生きることができないということをごだれでも知っています。深い鉱道の中でさえも地下で働く人々を生かすために絶えず新鮮な空気を換気抗にポンプで送る必要があるのです。そうなると、人類が大地の底深い所でどうして生きられるでしょうか。

見いだされる唯一のデロは利己的な空想によつてつちかわれる幻影です。酸素が欠乏したり、ある種のガスの煙

などにさらされるような不自然な環境下にいれば、ときとして人間は全くバカげた考え方を事実として認めるほどに影響を受ける傾向があります。

私たちはアルコール中毒による精神錯乱状態の影響をみなよく知っています。その場合、患者にとつて幻覚が真実そのものとなります。最大に手をつくして恐怖心を取り除いても、本人が見ている「ヘビ」は存在しないのだということを確信させないでしよう。心がほとんどいかなる考え方もも真実として受け入れるのは精神の不安定の期間中です。

科学者は心の持つ潜在能力をいまや理解し始めており、自己理解の欠乏のために心は多くの誤つた考え方に屈しやすいということも認めています。これこそデロのようなものに対する唯一の筋道の立つた説明です。

しかし再度申しますが、われわれの科学装置は、もしデロが実在するものならば、その存在を間違いなく探知するであろうことを読者に思い出させておきましょう。

電波を規制している当局が発見していることですが、放送局なしにメッセージが放送されることが不可能なのは自明です。

そうですね! 地球の内部深い所に住んで、地表で生きている人々の運命を支配している人間は存在しません。こうした事柄のすべてを考察するとき

常識を用いましょう。神は私たちに頭脳を与えてくれたのですから、それを知的に利用しましょう。

スペース・ピープルは「靈人」ではない

問87 自分たちは別な惑星にいたと称する人々があり、そのなかにはスペース・ピープルによつて作られたという録音テープ類を持っているという人もあり、自分たちの体験の報告を刊行したという人がありますが、この人たちはスペース・ピープルは物質化したり非物質化したりする靈人だと主張しています。しかしあなたはスペース・ピープルは肉や血液を持つ人間だと言っています。もし私が彼らの宇宙船(UFO)を見ていなければ、UFO問題のすべてを忘れてしまふかも知れません。ときどき私はUFOを見なければよかったのにと思うことがあります。相反するさまざまな主張が私を混乱させてきたからです。この件を私にはつきりさせて下さいませんか。

答 私にはあなたの気持がわかります。私もあの素晴らしい人々(スペース・ピープル)に会わねばよかったと思ふことがときどきあります。もし会わなかったのなら彼らの名前で悪事が行われている莫大の数のペテンに堂々と身をさらす立場にたてるからです。

ですが実際は、もし私が真実をわざとゆがめている人たちや、あれほどの

立派な事を嘲笑している人々を公然と非難すれば、私は嫉妬心をおこしたと云ってただちに非難攻撃されるでしょう。

公言されたあらゆるコンタクト事件は事実にもとづくものであったと私は正直に望みたいところです。しかもあらゆる男女や子供もスペース・ピープルと会える特権と楽しみが得られることを願うものです。スペース・ピープルもあらゆる地球人に自分たちの正体を洩らしたい、または少なくともテレパシーで私たちと交流したいという気持をあらわしています。

しかし彼らが言うには、私たちは頭の中があまりにも自分自身の想念で一杯になっているので、彼らが想念を送っても私たちはその印象を受信することができないということ。そして私たち地球人は懐疑心があるばかりか自己拡張を図るサギ師にだまされやすい性質もあるために、スペース・ピープルは毎日接触している地球人に気づかれないように、地球人のあいだをひっそりと行動しています。

この質疑応答の問12に、スペース・ピープルをエーテル体（霊人）と信じることの誤りが説明してあります。問35では物質化と非物質化にたいする質問に答えています。

現在まで私はスペース・ピープルによって母船またはホーム惑星またはこの地球で作られたという録音テープや

レコードの本物が公開された事実を知りません。多くのこのような録音物がこうした状況で二、三作られたと称されていることを私は知っていますが、これまでブラザーズはどれも本物ではないと言っています。

この件に関して心配になるのならば、ただちにそれをやめるようにおすすめます。心配は肉体細胞を消耗させ、心のドアを閉じてしまい、けつして問題の解決にはなりません。

真実とニセモノとを 見分ける方法

問88 今日 UFO 関係の文献にあまりに大きな混乱がありますので、真実なものとの謎めいたものとを区別するのは困難です。真実の体験を書いた著者の名前をあげて下さいませんか。

答 私が名前をあげるの賢明な事ではないと思います。なぜなら UFO 体験記を書いた人たちの多くは、自分の体験は本物だと信じているにちがいないからです。彼らにとっては本物ですが、……しかし夢想家の夢も本物なのです。そして具合の悪いことに、コンタクトに関して書かれた文献の多くはこの部類に入ります。

各人が自分の読む書物に関して自身の結論を引き出し得る方法が一つあります。それは、自分が「こうあって欲しい」という夢想家でなければ、自然の諸法則に従った内容の書物を読

むときに、自分の内部に調和のフィリングが起ころでしよう。どこでそれが起こっても認められるはずで

しかし書かれている文章の中に分裂、非難、裁き、予言（特に特定の日を指定したもの）、個人的な報いの約束など、宇宙の法則に一致しないものがある場合は、不安、恐怖、不平のフィリングが読者の心の中に起ころでしよう。この種の文献のすべては文句なしに見捨てるとよいでしょう。

人間と大自然とはありのままに存在するので、ある一定の予言が実現するのを防ぐために諸条件を変えることはできるのです。したがって別な世界の人々は一瞬一瞬をありのままに生きながら、展開してくる物事を観察し、自分たちの能力を最大限に発揮して、各状況が起ころでしようにそれに立ち向かうのです。この理由で彼らは約束や予言などをしません。

問89 私は最近、別な文筆家兼講演者がオーソンに会い、指導を受けたと述べてある文献を受け取りました。またスペース・ピープルはときどき地球人にわざとウソをついて、地球人を試すためにだましたりすると述べてあります。これは本当ですか（注：オーソンというのはアダムスキーがコンタクトした金星人の仮の名）。

答 本当ではありません。私はこの前オーソンと会う以前にこれと同じ報告を受けとっていますし、世界中から

この件で多くの質問が私宛に来るかもしれませので、私はオーソンにむかって「この人に会いましたか」と尋ねました。するとオーソンはその人間に面とむかつて会ったこともなければ、テレパシーで交流したこともないと答えていました。

オーソンが言うには、この人はあらゆる面でもじめではあるけれども、心があまりに混乱しているので、スペース・ピープルから送られるメッセージを受けとることができないのだということ。このような主張（オーソンと会ったという主張）は希望的観測（こうあって欲しいという願望）の結果にすぎないと言っていました。

これと同じ人によつてもっと最近出された、スペース・ピープルは地球人をテストするために私たちをだますという声明は、オーソンが言ったことの正しさを確認しています。

というのは、もしだれかが丘の上にいる仲間を助けているときに、自力ではい上がつてくる事ができるかどうかを試そうとして相手をわざと突き落としたりするでしようか。特にその落下のためにケガをするかもしれないというのに――。

これと同じことがあてはまらず。もしスペース・ピープルによつて私たちにウソやだましが行われるならば、彼らの存在を知つて信じている私たちは取り返しのつかないほどに傷つくで

しょう。

このスペース・ピープルは私たちよりもはるかに進歩しており、地球人がいまこうむっている体験類を通過し、征服することによって、その段階に到達しているのだということを思い出して下さい。彼らは地球人が直面している苦闘を理解しており、そのために地球人にたいして深い同情を感じているのです。

何度も言いましたように、彼らはただ地球人を助けただけだと繰り返し私に語ってきました。——ただし私たちが耳を傾けて彼らの援助を受け入れるならば、です。

私の書物の刊行以来、私はスペース・ブラザーズから「メッセージ」を含む多くの連絡を受けてきました。彼らには『宇宙船の内部』（アダムスキー全集第一巻『宇宙からの訪問者』の第二部）に私がつけた名前が出てきます。読者がこの書物に注意深く読むならば、この名前は彼らの本当の名前ではなく、読者の便宜をはかって用いられた身元確認の手段にすぎないことがわかるでしょう。

ブラザーズは、この書物に出てくる名前で「メッセージ」が与えられたと称する多くの人が出現するかもしれないことに気づいていました。このため、当時彼らブラザーズは書物に出てくる名前で自分の身分を表明するようなことはしないからと約束しました。彼ら

は次のように約束したのです。もし彼らが別な人を通じて私に伝言を送ろうとする機会が生じたならば、彼らが当時に与えた名前での自分の身分をはっきりさせるというわけです。この名前は全然公開されていません。今日までこの身分確認用の正しい名前を含む手紙または報告書類を私は受けとったこともなければ見たこともありません。私はこの質問で言及されている文筆家を知っていますが、個人としてはその人を好みますが、誤った声明を支持することはできません。——だがスペース・ピープルのスポークスマンとして代弁しても、です。

デマとサギについて

問90 あなたは一九四三年にあるSF誌の編集長へ原稿を送りましたか？

その原稿はあなたが後に『空飛ぶ円盤は着陸した』の中で報告した事件と基本的に同じ内容で、ただイエス・キリストの名が金星人のかわりに用いられているとのことですが——（注||アダムスキーは砂漠における金星人会見事件と同じような内容のSF小説を、会見が発生する以前に書いていたというデマに関する質問）。

答 絶対にそんなことはありません！何がレイ・パーマーにこんなデタラメな声明を出させたのか理解に苦しみます（注||パーマーがその声明を出した

張本人）。

この小説の原稿が書かれたと思われる一九四三年に、私は全く著作活動はやっていませんでした。この頃は戦争中で、私はバレーセンターの農園にいて、ニワトリを飼ったり果樹園の世話をしたり火事の警備の分担などをやっていました。その当時私には秘書がおらず、タイプライターも使用していませんでした（注||アダムスキーは生涯みずからタイプライターを使用しなかった）。

パーマー氏は自分の声明について、全部記憶にもとづいて言ったと称しています。『空飛ぶ円盤は着陸した』が出版されてから六年後に彼の記憶がよみがえり始めたというのは奇妙ではありませんか。しかもその小説の原稿が送られたと思われている年から今までに十五年が経過しています。なぜ彼はもつと早くそのことに言及しなかったのでしょうか？

一九五二年十一月二十日にカリフォルニア州の砂漠で私が金星人と会見した報告は右に述べた書物に収めてありますが、これはこの種の記述として私が最初に書いたものです。これはノンフィクションの書物で、あらゆる点で事実を述べたものです。

問91 『大気圏外企画』というのがあるが、その説明書には映画を作るための資金の要請が述べてあり、あなたも賛同者として名前が加えられています

が、あなたはこの企画を支持しているのですか。

答 絶対に支持しません！私の名前は私が知らないうちに許可なしにこの説明書に加えられたのです。私はこの企画を主催しているロンまたはジョン・オーモンドのいづれにも会ったこともなければ文通したこともありません。

たしかに私の名前はこの団体の広告の中に用いられていますが、その事務所のためにも私にコピー一枚すら送ってよこしません！この説明書を受けとった一友人がいなかったら、そして私はこの問題について知っておくべきだということに気づかなかつたら、いまもつて私の名前が不正に使用されていたことを全く知らなかつたでしょう。

このような驚くべき主張にもとづいて資金集めをしようとするやり方を知った私はすぐにこの件を私の弁護士に伝えて、彼らの広告から私の名前を除くために何らかの処置をとるよう指示し、さらにこうしたいかがわしい主張のもとに集めた金のすべてを献金者に返させるように要請しました。ただし人々がなおもこの企画に献金したいのならそれは人々の自由です。

私の弁護士は『大気圏外企画』の主催者によって行われているやり方は違法行為であり、この件に関して先方に接触していると知らせてくれました。

問92 私は、いつでもスペース・ピー

問93 あなたが撮影された宇宙船(円

ブルとの会見を手配することができると称している人たちのことを聞いています。これは可能なことですか。

答 こうした主張のすべてはサギ以外の何物でもない私は確信しています。この多くは金を得る目的でやっていることです。私を知る限り、だれかが、いつでもスペース・ピープルとの個人的コンタクトを手配するのは不可能なことです。

こうしたことを主張する者がある種の「心靈的コンタクト」をほのめかしているのなら、それは別問題です。しかし私が受けとった情報によりますと、彼らの言っていることは宇宙人との実際の会見に関することです。これはまじめな人々にしかけられたインチキにすぎません。こんな者を私は全く支持することはできません。

もし私がスペース・ピープルとの個人的コンタクトまたはUFOとの近接目撃を保証することができたら、今頃は大金持ちになれたでしょう。

というのは、一九五二年にオーソンと会って以来、私はスペース・ピープルと会わせてくれという魅惑的な(注)金を出すからの意)申し出を受けてきたからです。しかし私はひんぱんにブラザーズと会い続けていますけれど、心底から正直に言いますと、いつでもどこで会見が行われるかを予告することはできません。

問94 私たちがキリスト本人の再来を

盤や母船)の写真のプリントを、どこで入手できますか。

答 私の事務所にオリジナルのネガから手焼きした写真類があります。機械で焼けばもっと安価に現像できるようですが、私は最上のプリントを仕上げたいのです。これらは一枚五十セントで頒布されています。私はもちろん自分のネガを撮り直すことはできませんから、慎重に扱わねばなりません。

ある人々が言っているように、かりに私がこれらの写真を撮るために模型を使ったとすれば、こんな慎重さは不必要になります。私はその模型の別な写真を撮ればよいのですから!

しかしオリジナルの写真を撮影して以来、同じような写真が世界各地で多くの人によって撮られてきました。写っている宇宙船が本物でなければ、この類似性はあり得ないことです。当然のことながら、自分が個人的に体験しなかつた事柄を疑おうとする人々が常にいるものです。しかしますます多くの人がUFOを目撃し、その撮影に成功した人がますますふえています。

『空飛ぶ円盤は着陸した』と『宇宙船の内部』(注)いずれもアダムスキー全集第一巻『宇宙からの訪問者』に収録)に掲載してある写真類以外に、私は映画のコマからプリントした三枚一組の写真も持っています。これには大気圏内のはるか遠方に滞空している二機の巨大な円盤にむかつて上昇するア

問95 太陽に人間が住んでいますか。

メリカ最大のジェット機の一つが写っています。私はこの写真を撮るときに自分のカメラでジェット機を追いかけたり、それが円盤に接近して円盤の下方を通過し、さらに前進する光景をとらえました。あとにはジェット機の白い航跡を通して円盤が動かないで空中に停止しているのがはっきりと見えます。このプリント写真も各五十セントで頒布されています(注)むかしアダムスキーはこの16ミリ映画をコピーしたフィルムを各国コーワーカー(協力連絡者)に送ったが、当時文通の日の浅かった訳者の元へは来なかつた)。

私はレナード・G・クランプ氏によって描かれた正射影法による図面のプリントも持っていますが、この中には私が撮った円盤の写真と、イギリスのステイヴン・ダービシャーが撮った写真とを比較しています。また『宇宙船の内部』に掲載された宇宙船の断面図のプリントもあり、これらすべては各二十五セントです。

私の記述から描かれたオーソンの油絵を見た人々の要求によって、この絵画の写真も二十五セントで頒布されています。

問96 太陽に人間が住んでいますか。

得て帰れるでしょうか? 彼が帰ったとしてもだが彼をイエスと認めてその正体に確信を持つでしょうか? 数世紀のあいだに多くの(救世主らしい)演技が行われてきたのです!

もし彼が昔やつたように病人を治したりすれば、山師扱いされ、世界の医学界から迫害を受けることにならないでしょうか? もし彼が奇跡を行えば神秘的な事をやつたといつて非難されないでしょうか? もし彼が地球で生まれないう宇宙船でやって来たとするれば、どのように歓迎されるでしょうか? そして、もし彼が再度地球で生まれたとしても、私たちは彼を受け入れるでしょうか? 彼は昔は拒絶されたのです!

人間が物質主義の毛布の下に眠ることをやめて意識的な知覚力が目覚めないう限り、外見上他人と同じように見える一人間の正体に、どのようにして気づくことができるでしょうか?

イエスが帰ってきて受け入れられるということになれば、それは現在の社会システムのすべてをくつがえして、彼の宇宙的な教えのために道をあけることを意味します。私たちはその準備ができていますでしょうか?

答 考えられることですが、私はまだ太陽に着陸したスペース・ピープルの報告を受けつついません。

彼らが私に語った事によりますと、

太陽については宇宙を旅する人々によってさえも実際にはほとんど理解されていないという事です。地球の科学者(複数)は、私たちがかつて考えていたように、太陽は熱い天体ではないことを認めています。むしろそれは一個の自然な惑星であり、太陽系におけるその目的が通常の惑星のそれとは異なるのです。

私たちの太陽、または他の太陽系の太陽も、巨大な発電機にたとえらると最もよいたとえになるでしょう。それはエネルギーの中心ユニットであり、その影響力は太陽系内の空間を活性化させています。

私たちは大自然界について、まだほとんどわかっていないことを認めねばなりません。ただ推理し得るだけで人間を含むあらゆる形ある物は、すぐくさまざまな環境の中で生きのびるために生まれ出ています。たとえば人間は北極地帯に生まれ、極寒の条件下で幸せに暮らしますし、あるいは熱帯の気候の中に生まれて酷暑やひどい湿度の中で満足しています。しかもこんなに極端に異なる地帯のどちらから一方の風土に人間が慣れることは可能です。したがって、宇宙の人類はどこでどのような条件に出くわそうとも自然の条件に従って自分の生活習慣を調整するのです。

なぜスペース・ピープルは地球へ来るのか

問96 別な惑星群の生活がそのまま理想的だというのに、なぜその人々は地球へ来て住んだり働いたりするので

答 生来、人間は旅行者です。人間は新しい場所を訪れたり新しい景色を見たり新しい人々に会ったりするのを楽しみます。他国で数カ月または数年をすごすことができ、その言葉や習慣を学び、接触するようになった人々から新しい考え方を知らされたりするこの世界の幸福な人たちは、この方法だけでも多くの知識を得ます。

たとえば探険家や聖職者たちがすぐ充実した面白い生活を考えてごらん下さい。そのいざれもしばば外国で数年をすごします。その数年間は金にかえられない貴重な記憶で輝いていると彼らは語るでしょう。ただし地球の貨幣制度のために大多数の地球人が遠方への旅を楽しめないのは残念なことです。

近隣の惑星群には商慣習がありませんし、すでに述べましたように、教育の一端として宇宙旅行ですごすための休暇が与えられるのがあらゆる住民の習慣ですから、彼らのなかに一時滞在で地球へ来ることを選ぶ人たちがいるのは当然です。

ひとたびこちらへ来れば彼らは地球

人の習慣に従う必要があります。したがって彼らも地球で生まれた私たちと同様に生活のために働かねばなりません。ただし一つの大きな相違があります。それは、彼らは着陸する前に、訪れようと思っている国の言語を常に学ぶという点です。

やがて自分のホーム惑星へ帰る人もいますが、私が聞いたところによりまして、いったん地球へ来たスペース・ピープルの多くは余生をすごすために地球にとどまることを決めるということとです。

問97 仕事を獲得するために多くの国で必要となる個人的な身分証明書類をスペース・ピープルはどのようにして入手するのですか。

答 宇宙の旅行は近隣の惑星群の人々にとつて新しいことではないことを思い出して下さい。彼らは長い時代を通じて地球へ来ていますので、家族のきずなや友情などは世界中にうまく確立されているのです。地球に住んでいるスペース・ピープルの記録が保管されていて、新来者が到着すると会合が開かれます。

また個人の身分証明書類の必要は比較的最近の要求で、特にアメリカではそうだということを思い起こして下さい。あなたは多くの人が出生証明書を持たないことに気づくでしょう。というのは、さほど遠くない以前は出生の登録は関係した医師の手にまかされて

いたからです。その他、火事、嵐などで記録を失った人もあり、同様の災難で公式記録書類をだめにした人もあります。ある州が学校へ入学する児童に出生証明書の提示を要求するようになったのは近年になってからにすぎません。それ以前は、個人が生まれたことを一枚の紙で証明することは必要だと考えられていませんでした。

この国で社会福祉制度の番号を入手する件について私の知る限りでは、出生証明書または他の記録書類を作る必要はありません。私たちのよく知られた身分証明の方法の一つである運転免許証は、視力がよくて車の運転能力があればだれでも取得できます。

出生証明書や他の身分証明の手段がある産業界で仕事を獲得のに必要であることは本当ですが、これまでに多数の会社はこうした証明書類を要求しておりません。私たちは個人の身分証明書類について多くの面倒な目にあいますが、実際にはほとんどの書類を入手するのはさほど困難ではないのです。

問98 あなたはスペース・ピープルの永久的な記録のことを(書物で)述べていますが、それを説明して下さいませんか。それは紙に書かれたものですか、金属板ですか、テープですか。

答 私が見た物は外見が私たちのテレビで映すビデオテープによく似ています。これには磁氣的に絵と音声記録されています。これがどのようにして

作動するのは知りませんが、いまのところ地球にはこれを再生できる装置はないと聞いています。

彼らは地球の多くの言語のように、個々の文字から成る語をもつアルファベットの文字を用いませぬ。むしろ彼らは東洋的なスタイルに似た象徴を用いるのです。この場合、一個の象徴は一語または一つの完全な概念をあらわします。

スペース・ヒールは宗教的礼拝日をもたない

問99 他の惑星の人々は私たちがやるように礼拝のための特別な日を定めているのですか。彼らは教会へ行くのですか。

答 近隣の惑星群の人々は幼児から生命の科学を教えられていることを私は知っています。心と肉体の機能、人間と大宇宙との関係などの教えが最も重要だと考えられています。想念の力について教えられている彼らは、心の奴隷になるよりも心の主人になることを学んでいるのです。

彼らは宗教的な行事のための特別な建物を持っていませんが、生命の諸法則の教えが教育機関で与えられ、あらゆる年齢の人々が出席します。そして彼らは学んだ事柄を日常生活で実践しています。地球の習慣のように一週間うちの一日だけの特別行事にはしません。

あらゆる偉大な指導者は尊敬、愛、友好関係の法則を教えてきました。イエスの教えはキリスト教界のあらゆる宗派の基礎になっています。彼は私たちに一つの戒律を与えました。それは「裁きのない愛」の戒律です。しかし地球人のあいだに広がっている分裂、怒り、憎悪などをごらんなき。このすべては戦争やあらゆる面で私たちが直面している戦争の流言などの基礎となつています。

もし別な惑星の人々が彼らの教えを地球人と同程度に生かしてきただけなら、彼らも今日の地球に見られるのと同じ混乱を経験することになるでしょう。

いいですか、あらゆる個人は自分が出会うあらゆる人に影響を与える放射センターです。そしてかわつて相手の人々は無数の他人との接触によつて自分の反応を伝えていくのです。

このようにして私たちも一週間のうちの一日だけの宗教的行事に出席するのではなく、一瞬一瞬自分の信念に生きるべきです。

スペース・ヒールの生き方

問100 別な惑星の人々や彼らの生き方についてもっと話して下さいませんか。

答 別な惑星の人々は肉体的に私たちに似ているという事実をまず認めて下さい。彼らは家族とともに家に住み、

働き、ゲームをやり、歌い、踊り、笑いますし、地球の私たちと同じように日常の必需品を持っています。宇宙人とは空間をあてもなく浮かんでいる神秘的なエーテル体（霊人）だという混乱した考え方から離れて下さい。彼らは聖者でもなければ罪人でもありません。通常の忙しい人間です。問45を再読して下さい。

金星の住宅や他の建物について私が見せられた画面にはドーム型の屋根がありました。しかし私は金星の一部分だけを見たというのを銘記して下さい。その建築は地球と同様に場所によつて異なる聞いています。

金星の主婦は私たちの近代的な労働節減装置にたとえられる多くの便利な装置を持っていますが、もちろんその多くは私たちがまだ夢想もしないものです。当然ながら私は彼らの生活のこの面にあまりくわしくありませんが、あらゆる建築物には壁の中に磁気的な吸引装置がとりつけてあり、チリが落ちる前にそれを吸い込んでしまいます。彼らは最微小な物をも無駄にしないので、このチリは周期的に集められて、その貴重な無機物を再生利用するために処理されます。これは地球の大工場から出る廃棄ガスが集められて、副産物を作るために利用できる諸元素を抽出するのと同じです。

彼らは無数の中心な共同社会を持つていますけれども、地球上のように

巨大な混乱した都市はありません。私たちは地球全体の比較的小部分だけを利用しますが、彼らは人々の必要物を求めて惑星全体の土地を利用します。彼らは私たちのように肥えた土地を徹底的に使用しないで、作物の輪作を励行し、根覆いと肥料として自然の産物の何割かを土地に返してやります。こうしてあらゆる土地に周期的な休息が与えられるのです。

このようにして自然界と協力しながら、彼ら是有毒性のスペレーや人工肥料などの使用を不必要としています。彼らは知っており、私たちは学びつつあるのですが、こうした物の無差別な使用は悪循環であるということです。

というのはある種の昆虫はこれによつて殺されますし、自然の敵がいなくなれば他の破壊的な生物が飛躍的にふえてきます。その結果、鳥たちも汚染されている自然の食物の犠牲となります。地球で私たちは地ネズミやモグラ、

穴にもぐっている生きものやさまざまの昆虫を皆殺しにしますが、これは彼らが必然的に食物として私たちの作物の一部分を食べるからです。しかし彼らが地中に空気を通す仕事をやらなければ、人間による耕作は不可能になるでしょう。

あとをたどってみますと、この連鎖反応は程度の低い昆虫から人間自体に至るまであらゆる生命体に影響を与えています。このことを別な惑星群の

人々は気づいているのです。彼らはあらゆる生命体は「宇宙の計画」において重要であり、人間の干渉がなくても大自然はその子供たちのすべてに必要な物を与えて、しかも永久に釣り合いを保っているということを知っています。無知のためにアンバランスな状態を作り出しているのは地球の人間だけです。

大自然界でもそうですが、これは人間関係にもあてはまります。別な惑星群の共同社会の生き方においては、相互に尊敬し合い、生活の必需品は万人に供給されますので、職員をかかえた刑罰機関の必要はありません。

金星、火星、その他私たちの太陽系内のどの惑星の人々も互いに調和して生きることを学んでいますので、彼らは緊張することはなく、その結果、病気になるしません。しかし彼らは自分たちの肉体の機能と心のコントロールの仕方について偉大な理解力を持っているという事実にもかかわらず、やはり疲れるのです。これを軽減するために彼らは消耗したエネルギーを補充する装置を持っており、くつろぎながらこれを使用します。

彼らは食物から肉体的に必要な物を摂取しますので、医薬品の必要はありません。事故の場合は人体の理解力のおかげで互いに助け合います。以上のすべてを考えてみますと、彼らが医師看護婦、病院などを必要としない理由がわかります。

読者はこのような生き方を天国のようだと考えますか？ この地球でも達成の可能性はあるのです。そのためのおもな必要条件は、各個人が自分の内部で、そして他人との交際において、調和的であることを学ぶことです。

(質疑応答元)

原著者付記

(1)この質疑応答集が印刷されているのに私は問61で出した問い合わせにたいする回答を受けとりませんでした。もし私たちの政府関係役人の一人が——これは秘書、主席代理人またはその他の部下を含むものではありません——国務省印が、押された印のついた国務省用箋を使用したい者に無差別に使わせることによつて、本来の価値を失つたと私に手紙を書くならば、私はストレイス氏の書簡のコピーを送つたあらゆる人に、氏の手紙をコピーして航空便で送りましょう。この申し出の気持は変わることはありません。本書の読者にも知らせます。

(2)質疑応答を続けることに関する私たちのアンケートにたいする反響が、経済的な出費の埋め合わせを保証するに足るほどのものでなかったために、この第五分冊が最後の発行となります。私たちはこの発行の仕事で忠実な友人たちと楽しく働きましたし、最善をつくしました。最初にブラザーズが言いましたように、この進展によつて、

真剣にやろうとする人と好奇心だけの人とを分けるでしょう。予約された方の住所氏名はこちらの恒久的なファイルに記録してあります。私たちはできる限り、今後起こるかもしれない重要な出来事を予約者にお知らせします。

私たちは多くの質問を受けとりましたが、それは「宇宙船の内部」に明確に答えてあります。その他の質問は本書で回答しました。良き生き方を望む人のすべては、日常の考え方や生活習慣の中に、「宇宙船の内部」の中に伝えられた知恵を、「テレパシー開発法」で見いだされる簡潔な教えの中に含まれている知恵を、そしてこの質疑応答集で伝えられた知識を応用されるようにおすすめします。

訳者付記

本誌91号より連載した『質疑応答』は本号で完結した。通読してみると、アダムスキーがデマ、中傷、非難攻撃等に手を焼いた実状がうかがわれるが、終始冷静な態度で明快に回答し、誤解の解消に努力したことがわかる。もつて範としたい。

この質疑応答集の最後にむかしの米空軍のUFO調査機関NICAPの主任キーホー少佐が低次元な手段でア氏をおとしめようとした実態と真相が述べてあるけれども一九五八年の古い話なので削除した。その他、質疑応答の本筋にそわない記事で割愛した小部

分がある。

この質疑応答集は約三十年前に書かれたにもかかわらず、内容は現在の混乱した世界のUFO研究界に的確な解答と示唆を与えるものとして驚くほど新鮮である。したがっていずれ一書にまとめて文久書林刊アダムスキー全集の第八巻に加えて発行する予定である。これでアダムスキーの重要な文献が網羅されることになる。

質疑応答集の原書は横82ミリ、縦152ミリの小冊子で、五分冊から成っている。アダムスキーから訳者に送られてきたのは昭和三十四年七月である。以来、重要な質問と回答を重点的に抜粋して各種の刊行物に掲載したが、長く書架に埋もれていた原書を新訳で公開しようと思いつたのは五十九年六月頃で、再度陽の目を見たのは前述のとおり同年十月発行の本誌91号からである。それまでなぜ書棚に眠らせていたのか、自分でもわからない。

この質疑応答集以外に訳者が何度もアダムスキー宛に直接質問状を送り、多くの有益な回答を与えられたが、そのほとんどはアダムスキー全集第三巻『UFOとアダムスキー』の第二部・書簡集の中に収録されている。本来なら訳者がアダムスキーに出した質問状も一緒に掲載すると理解が容易になるけれども(訳者がア氏に出した手紙のコピーも全部保存してある) ほう大な書物になるので省略したのである。



■UFO写真展、大盛況！
先号で予告した静岡支部・名古屋支部共催UFO写真展は一月八日より十九日までアピタ江南（愛知県江南市）を皮切りに開催、入場者数三七三〇名という大盛況。続いて二月十一日より十六日までアピタ一宮（一宮市）に会場を移し、入場者数二三〇〇名。二月十九日より三月三日までアピタ多治見（岐阜県）で開催、二六四〇名が入場。三月二十六日より三十日までアピタ豊田（愛知県）で開催。四月二日より六日までアピタ緑（名古屋）で開催し、いずれも大成功を取めた。日・祝日には会場で野口静岡支部代表と舩民典氏が講演とQ&Aを行い、他にスライド上映、UFOカレンダーのプレゼント等もありヤングを喜ばせた。UFO問題に関心をもつ人が多く、UFO写真という視覚効果によるアピールはきわめて価値ある、知らせる運動、だと野口氏、林名古屋支部代表より報告。中日、岐阜日日、読売の各紙が写真展

を大々的に報道して観客動員に貢献した。昨年の日航機事件でタイミングがよかったという。アピタ江南におけるアンケート結果は興味深く、UFO存在を信ずる人が圧倒的多数と出た。
(A)今年度は長野支部が六月四日より九日まで松本市深志一丁目二一十一、昭和ビル二階、ブックス・ロクサン(63)ギャラリィでUFO写真展を開催する。松本駅前大通りを徒歩二、三分。
(B)新潟支部も七月末か八月月上旬にUFO写真展を企画中。会場は新潟市内のデパートを予定。日程は次号に掲載。
■栃木支部誕生
日本GAPの十九番目の地方支部として四月一日より栃木支部が発足した。支部代表は鹿沼市の渡辺克明氏、副代表に菊地啓子さんが就任。月例研究会は四月より鹿沼市の御殿山会館一階小会議室で毎月第三日曜日午後一時より五時まで開催。40頁の全国月例研究会案内を参照。
この他にも長崎支部設立の動きもあるが、詳細は不明。
■長野支部、月例会場を変更
長野支部は従来塩尻市で月例会を開催していたが、今年四月より偶数月のみ松本市の松本市あがたの森文化会館二階会議室に会場を変更する。奇数月は従来どおり塩尻市の総合文化センターで開催するが、出席希望者は40頁の月例会案内の連絡先へ毎月事前に問い合わせられたい。来年は一本化する。

■今年度地方支部大会
去る三月二十一日の松山支部大会は五十七名出席して盛況裡に終了。続いて次の各支部が今年度の支部大会を開催予定。詳細は37頁に掲載。
静岡支部大会 静岡市にて五月四日、(三日連休の中日)
青森・秋田合 青森市にて六月二十一日支部大会 日(日)
福岡支部大会 福岡市にて十月四日(日)
長野支部大会 長野市にて十一月二十一日(連休初日)
右の内、静岡支部大会は支部設立十周年を祝い、機関誌発行百号達成記念として盛大に挙行の予定。青森・秋田両支部は過去に各一回ずつ大会を開催した実績があるが、今年より合同による第一回目として開催。詳細は37頁。福岡、長野各支部大会の詳細予告は次号に掲載。
■今夏の海外研修旅行
今年八月に実施予定のアメリカ東部西部とメキシコの古代マヤ遺跡をめぐる十二日間の旅は好評裡に申込者がふえている。三月末現在の申込者は次のとおり。(敬称略) 伊藤芳和(東京)、中島和子(千葉)、芳賀弘子(岩手)、菅原優子(同)、安藤澄雄、博子、汐南(東京)、鈴木まり子(静岡)、海老原まゆ美(大阪)、坂本茂子(秋田)。
参加希望者は39頁の予告を参照の上、早目に案内書をワールドセプトラベ

ル社へ申し込まれたい。
※旅行説明会
右の海外旅行の第一回説明会を五月十日(日)午後一時より五時まで東京上野公園の東京文化会館四階中会議室(東京月例会会場の右隣の部屋)で開催するので参加申込者と考慮中の方は出席されたい。会費無料、筆記具持参。終了後は別な場所です夕食会を開く。会場については40頁を参照。第二回説明会は七月二十六日(日)午後一時より五時まで中央区銀座ガスホール(63)三二五七三二一八七一)六階会議室で開催する。場所はJR有楽町駅下車、銀座中央通りへ出て七丁目の資生堂斜め前。奥にエレベーターがある。
■GAPバッジを製作頒布
日本GAPは会員用のバッジを頒布している。これはアダムスキーが金星人から与えられた唯一のバッジのイメージをモチーフに、編者(久保田)はそれを約十個入手し、手元に残っている二個をモデルに本物同様に複製したもので、径十八ミリの青色円板に黄金色のシンボルマークを浮き彫りにし、縁を黄金色で囲んだ優美なもの。表面に透明樹脂がかけてあるのでキズがつかず、光を反射して輝く。男性用は裏面に心棒がありネジでとめる。女性用は安全ピンがついている。いずれも一個二千元、送料百二十円。ケース入り。

私は別な惑星へ行ってきた!

日本にいる数千名の異星人、金星の学校と超絶した音楽、テレパシー練習法、他
 〈連載第四回〉

春川氏の驚異的超能力

まず氏は編者が持参したUFO写真
 数点を鑑定する。いずれもGAP会員
 が各地で撮影した写真だが、撮影時
 は気付かず、現像プリントしてから画
 面に出現していた物体ばかりである。

氏は一枚ずつ丹念に写真を見つめて
 写真から発する波動をキャッチする。
 清水港上空のUFO（伊藤達夫氏撮影。
 本誌94号に掲載）を見たあとで語る。
 「これは円盤ですね。間違いないです。
 これはかなり強い波動を出しています」
 「やはりアダムスキータイプの円盤
 ですか。」

「ええ、そうです。この写真中の黒い
 物体に意識を集中しますと、金色のポ
 ーツとした光芒が見えてくるんです。
 波動といってもよいでしょう。それが
 出るのは円盤に間違いありません。し
 かし写真からそんな波動が出るとい
 うのはすごく不思議なんですがね」
 「それはオーラですか。」

コンタクティー—春川正一氏(仮名)はなおも語る—

「見え方から言えばオーラですね。そ
 れがなぜ平面の紙に焼き付けられた写
 真から出るのか、理由がわかりません。
 鳥などが黒くボツンと写っているのは
 そんなオーラが見えないんです。その
 他、気球にもそれが見えません。しか
 し旅客機の写真を見ると、人間が沢山
 乗っていますので少しは生命的な波動
 が出ているのがわかります」

だから春川氏は本物の円盤でない物
 体、たとえば鳥その他の物が写ってい
 る写真ならば、はっきりと否定する。
 その区別はきわめて明確で、どちらか
 よくわからないというような曖昧さが
 ない。

写真ばかりでなく、他人が書いた手
 紙の内容をざっと説明してもらっただ
 けで、その書いた本人の性格やカルマ
 などを言いあてる。そして後日それが
 正確であったことが判明するのである。
 写真類を見せたあと、地方のある若

い女性からの書簡の内容を説明した。
 本人は旅先で一人のスペース・ブラザ
 ー（注：友好的な異星人）に会ったと
 思い込んでいたのだが、これは本物か
 どうかという問題だ。

春川氏は手紙を手にとって波動を感
 じながら答えた。
 「これは本物のスペース・ブラザーで
 はありませんが、地球人にしても特殊
 な能力を持つ立派な方です。それにこ
 の手紙を書いたご本人も非常に良い人
 ですね。この女性は実に立派な方で、
 特殊な能力の持主です。結婚されたら
 生まれるお子さんがすごい人物になる
 でしょう」

編者は大いに驚いた。この女性会員
 とはかねてから顔見知りで、本人が一
 種の超能力の持主であり、性格的にも
 立派な人物であることをよく知ってい
 たからである。春川氏は手紙から発す
 る波動によってこれをすべて感知する

のだ。

今までのいぶん多くの超能力者に会
 い、それぞれの「実演」を見てきたけ
 れども、春川氏のごとく驚異的な能力
 と正確さを発揮した人を編者は知らな
 い。これだけでも氏が円盤や大母船に
 乗せられて別な惑星へ行ってきたとい
 う体験が真実そのものであると確言で
 きるのである。氏の超能力発揮の実例
 は他に多くあるけれども、ここでは省
 略しよう。

気付かないで、み使いを
 もてなしている

——いま日本にはどれぐらいの数のス
 ペース・ビーブル（注：友好的な異星
 人）がいらっしやいますか。

「そうですね（しばらく考えて）、かな
 りいるでしょうね。人数はふえ続けて
 います。ここ数年の増加がいちじるし
 いと思いますよ。正確な人数はわかり

ませんが、三、四千人はいるんじゃないでしょうか」

「ほう、そんなに大勢！」

「ええ。ただし常駐的な人は二千人以内だろうと思います。全国に分散しています」

「みなさんは職についていらつしやるんですか。」

「常駐の人は職についています。日本の大学の卒業資格を持っている人もいますよ。早稲田の卒業資格を持っている人もいました。やはり学校へ通って勉強するんです。いろんな学校へ通うらしいですよ」

「地球の学校で勉強したつてしようがないでしょうに。」

「結局、何かの目的でタイトルを取るんでしょね。彼らは地球の習慣に合わせる技術はうまいですよ」

一億以上の日本人が、国内にいる数千名の異星人に全く気付かず暮らしており、なかには一緒に働いたり学校で学んだりしている人もあるのだ。もちろんスペース・ビープルは日本人を名乗り、顔も日本人タイプの人がほとんどであろうから、ごく少数の特殊なコンタクティを除いて、だれにも正体を見抜かれない。ふだん職場でみんなから「××さん」と親しく呼ばれている人が偉大な発達をとげた別な惑星から大宇宙船で来た人だとはだれも夢想もしない。こうして一般人は「気付かないでみ使いたちをもてなしてい

る」のである。

この世界の裏面には信じがたいような驚異の事実が確かに存在するのであって、編者が知る限りでもかなりな実例がある。

金星の学校と自由の定義

「アダムスキーの記述によりますと、金星にも学校みたいなものがあつて、だれでもそこへ行つて自由に勉強できるようですが、やはりそのとおりですか。」

「はい、非常に自由ですが、ただし自由という觀念がわれわれ地球人とは違ふんです。地球人の自由はとかく開放的で、やりたいようにやる、という感じですが、金星人は自由というものを『犯さず、また犯されることのない状態』という定義に従っています。ですから非常に礼儀正しくて、学校へ入る時機を先生も知っていますし生徒も知っています。そのときに学校へおもむくのです。」

だから『やりなさい』ということもないし、叱咤激励みたいなこともないですし、とにかく淡々としているんです。したがつて支配的なものが一切ないんです。だからといって生徒が増長することもありません。地球ならば先生が統制しないと生徒が増長するのですが、そんなことは全然ないんです。各人が分をわきまえるという姿勢は

すごくしっかりしています。なぜここまで発達しているのかと言いたくなるほどしつかりしていますね。

とにかく金星人は表情がおだやかです。子供たちもそうです」

「赤ん坊は泣かないんでしょう？」

泣くのは地球人の赤ん坊だけでしょね。

金星の超絶した音楽と楽器

「とにかく金星人はもの静かで、そして歌をよくうたいます。テンポの早い曲はなく、流れるような、軽やかな（力をこめて発音する）曲が多いんです。地球のクラシックに近いようなものもあります。聴いていると感動が胸につたわってきます。よく胸が熱くなると言いますが、金星人の歌を聴いていますと、ストレートに心臓にジーンとくるものがあります。」

地球の流行の音楽でテンポの早い口ツクとかマンボみたいなのは、どちらかといいますと下半身に影響があるといいますが、腰が動き出すような曲が多いんですが、金星の楽曲はストレートに胸にジーンときます。それだけに波動が全く違っているんでしょうね」

金星の音楽に用いる楽器はどんな

ものがありますか。

「ハーブのような弦楽器が多いですね。なかには日本の和琴のような音を出すものもあります。あとは笛もあります。とにかく単純な楽器が多いんです。」

しかし演奏は実に見事なものです。たとえば一つの弦楽器で、よくもこんなに多彩な音が出るもんだと驚くほどです。地球でもギターでもつて琴や三味線みたいなさまざまな音色を出す演奏者がいますけれど、そのスケールの大きいものと思つて頂くとよいでしょう。」

たとえばハーブ型の楽器にしましても、非常に金属的な振動音を出すかと思えば、本当に弦そのもののボーン、ポロンという音色を出す場合もあります。または琴のようなピンピンという音も出します。一つの楽器を全く見事に微妙に使ひわけらるんです。ですからごく荘厳でキラキラときらめくような音楽です。」

あるとき、山の中から一個の石がころがり落ちて川の中を流れ、それが海まで行く過程で、その石の波動がどのようにに変化するかという状態を、全部音楽で表現して聴かせてくれたことがあります。舞踏を混じえながら演奏しましたが、これには大感動してしまひ、地球へ帰つてきても全く声も出ませんでした。地球の音楽を聴くのが気が悪くて嫌になつたものです。とにかく地球のあらゆる音響を聴くのが嫌

「なるほどに感動したんです」
「へーッ、そんなに感動したのですか！」

「いやもう、大変なものでしたよ！」

楽器自体は簡単なのですが、信じられないほど多種類の音色を出したんです。笛にしても金属製ですが、しかし地球のフルートみたいにごたごたした物がくつついていないで、和笛みたいなものです。しかしその音色たるやえらく澄んでいて、とてつもなく響くんです。これには驚きましたね」

「音階はやはりドレミファソラシドですか。」

「よくはわかりませんが曲は長音階です。短音階ではないですね。調子がはずれそうではずれないような中間の音がいります。音楽に詳しくないもんで説明がむづかしいんですが」

「大体に見当はつきますね。エジプトか中近東あたりの民族音楽の旋律みたいなものでしょう。」

「そうそう、そのとおりです」と、氏はわが意を得たりというような顔をして快活に笑う。

ちなみに春川氏は日本の楽器を研究したことがあるから、音楽にはかなり詳しいはずである。詳しくないというのは謙遜しているのだろう。編者自身もむかしクラシックギターの演奏活動を多年やっていたし、ブルックナーやマーラーなどの壮大な交響曲にのめり込んだ時期も長く、その後世界の民族

音楽に転向し、それも原始的土俗的なものにエスカレートした上、ついには風の音や波の音など自然の音響を録音して愛聴するという経歴をもつ者であるから、別な惑星の音楽と聞けば全身が好奇心の塊と化す。しかし実際に演奏を聴かなくても春川氏の説明で大体の見当はついた。アダムスキーも母船内で聴いた音楽は東洋的だと書いていた。だが金星の音楽ともなれば地球のそれとは根本的に異次元、異質なもののだろう。いつか聴いてみたいものだ。

「いちど私は金星のメロディーを作ってみたくて、友達にシンセサイザーを借りてやってみたんですが、全くだめでした。歯が立ちませんでしたね」

「金星にはピアノのような鍵盤楽器はないんですか。」

「鍵盤楽器もありますよ。ただしこれは大きな催しでやらないで、別な機会に使われます。楽器というよりも波動を調整する意味があるんです。ですから沢山の人が集まって討議をするような会合を開く前に、あのような鍵盤楽器を奏でるんです。ピアノのような音を出すのもありますし、チェンバロのようなカン高い音を出すのもあります。大きな演奏会では意外と鍵盤楽器は弾かなくて、弦楽器と笛ぐらいで、打楽器はほとんど使いません。太鼓みたいな叩く楽器はほとんど中に入れてないですね。」

ただし笛も強く吹くとポンポンという音に聞こえることがあって、それが拍子をとっているようです。先にお話ししました石が山からくずれるときの状況を、この笛のポンポンで表現していました。

「あちらの音楽というのは自然の風景や現象を表現してアレンジするわけです。その音楽の流れに非常に近いなと思つたのはいつかお話ししました日本人の作曲家Sさんの作品です。それで面白いなと思つていたら自然にその方に出会うことになったんです。私も生涯のうちに何か楽器を練習して、金星の音楽と同じような音楽を作ってみたいと思つてはいますけどね、のんびりと」

春川氏は屈託なく笑う。

「地球の楽器や音楽などは単純で面白くないでしょうか？」

「ええ、でも地球の単純な楽器でも熟練した人が弾くと非常に宇宙的な波動に近づくことがあります。S市にライブハウスをやっている方がいまして、ジプシー音楽の神様といわれるマニタス・デ・プラタという演奏家に日本人でただ一人直伝でギターを教わった人です。今ではむこうのジプシー音楽家が教わりに来るほどですが、その方のギターの演奏はときどき非常に金星の音楽の響きに近づくことがあります。私はすぐくそれが好きで、ときどき聴きに行くんです。ただその方はプロに

なるのを嫌ってレコーディングを一切やりません。そういう方に限ってそんなものなのでしょう。今度いつかそこへご案内しますよ（注：マニタス・デ・プラタはスペインのフラメンコギターの第一人者であった人）。

金星の文字と象徴

「話は変わりますが、金星の文字はどんなものですか。やはり文字があるのですか。」

「あります。独特な文字です。何度か見せられたことがあります。私の印象に残っているのは、横に一本の線があり、上に棒があつて、その両側に点が入った象徴です。これが金星の文章によく出てくるんですが、何を意味しているのかよくわかりません」

「アダムスキーの『金星文字』といわれるのは、あれは本当は文字ではなくて、図形をバラバラにしたものでしょうか？」

「ええ、一つにまとめると何かをあらわすのだと思います」

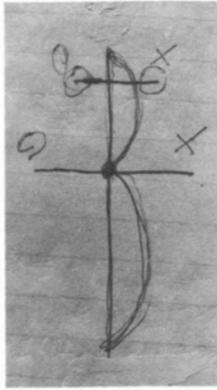
「金星文字はやはり一字一字手で書くのですか。」

「文字を書く機械があるんですが、やはり人間が手で書いて、そこに波動をこめるといのが基本になっているようです。」

文字に関してはいろいろと教わったのですが、ひとつ代表的なのは十字形

の図形の上の方にもう一本短い横棒がくっついている象徴があるんです。これは地球でキリスト教のクロスの原理になった文字で、われわれが教えたものだと言った金星人が言っていました。もとはこういう図形だったのが、後に簡略化されて現在の十字形になったというわけです。これも金星では代表的な文字で、人間の生きるべき姿勢をあらわしているんです（左図は春川氏が描いたもの）。

二本の横棒の左端は人間の積極性をあらわし、右端は消極性をあらわしています」



続いて春川氏はこの簡単なシンボルの宇宙的な意味をこまかく説明する。そして金星人は常にこのシンボルを見て自分の精神的態度を確かめるのだと語る。こうした哲学的意味をもつシンボルが十二種類あり、春川氏はそのうち三種類教わったという。

——私たち日本GAPはアダムスキーが金星のシンボルマークとして伝えた図形を象徴として使っていますが、あれが金星の文字であることは間違いな

いでしょね。

「ええ。間違いないと思います。金星にはあの手の花文字みたいな字が非常に多いんです。ひとつ金星文字を書いてみましょうか」と言って春川氏は編者の手帳に十個ばかりの奇妙な字を書いてみせる。一見アラビア文字に似ているが、もう少し複雑だ。GAPのシンボルマークはまさにこの種の文字であることを感じさせる。

「地球の文字は表意文字と表音文字とに分かれるでしょう。ところが金星文字は『表波動文字』ともいうべきもので、象徴と文字的なものとの中間点なんです。金星人はテレパシーが発達していますから、通信手段としての文字から卒業しているんです。だから一つの文字は一単位としていくつかの意味があります。

ですから例のアダムスキーのシンボルマークにしても、たぶん工学的な意味と哲学的な意味の両方を含んでいると思います」

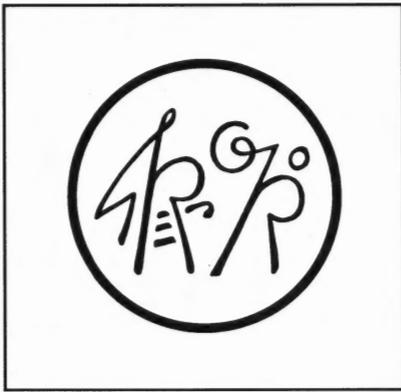
——あれは男と女、陽と陰、すなわち宇宙の父性原理と母性原理をあらわしているということですが。

「あれは特徴的な金星文字ですよ、いま手帳に金星文字を横に書きましたが、これらの文字をある程度組み合わせると、それを四角い枠や円、三角形の中に入れますと、それによって一つの意味がきまってくる。本当はこの文字をあまり書くのは金星人からとめられてい

るものですから沢山は書けないんです。地球人のテレパシクな能力を持つている人で、ときたまこの文字に似たような字を書く人があります。そして意味を断片的に読みとるんですが、ほとんど意味はわかっています。ところが円や四角や三角の中に入れると大きな意味をもつようになるんです。

アダムスキーのシンボルマークはたしか円の中に入っていましたね。あの円は宇宙をあらわしており、その宇宙の中に二つの原理があるということを示していると思います」

——全くそのとおりです。アダムスキーの説明でもそう書いてあります。円の中の左側のシンボルが宇宙の創造的父性原理、右側が母性原理だと述べてありました（注||このシンボルマークについてはアダムスキー全集第七巻「アダムスキーが金星人から与えられたシンボルマーク」



「アダムスキー論説集」一九七頁に正確な図と詳細な説明が出ている）。

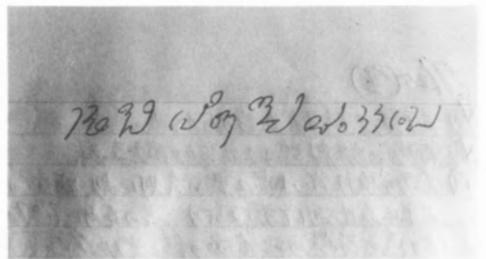
そうすると、あのシンボルマークを日常堂々と胸につけて歩いていかまわらないわけですね。

「ええ、もう堂々とつけて歩いていいと思いますよ」と、春川氏は明るく微笑してうなずきながら、

「アダムスキーがむかしあれだけの体験記を書いて、しかもあのシンボルマークを世間に伝えたというのは大変なことだと思えますね」と言う。

テレパシーは映像で来る

——あなたがスペース・ピープルからのテレパシー通信を受信するときは、



▲春川氏が書いた金星文字

頭の中で声となつて響くのですか。
「ええ、声で来る場合もありますが、私の場合は映像で来るのが非常に多いんです。映像のほうは正確なんです。声とか印象というのは微妙な差が出てきますからね。たとえばここに白い格子模様があつて、これを見つめたあと目をつむりますと残像が残りますね。テレパシー受信力が微弱な場合は、テレパシー通信とその残像がダブつてしまふ場合があるんです。

ところでしょつちゅう聞いているいろんな言葉、たとえば『早く仕事をしろ』とか、その他の言葉は強く頭の中に残っています。そういう言葉と音声によるテレパシー通信は混同しやすいんです。

ですから正確に伝える場合は、必ず象徴で来ます。明暗のはっきりした象徴です」

——それが見えるのですか。

「ええ、目をつむると額の内側にスクリーンが浮かぶんです。四角なスクリーンです。私は受信についてはかなり慎重なほうですから、宇宙人が考慮してくれたようです」

——そのスクリーンにテレビの画面を見るように映像が見えるのですか。

「はい、非常にはっきり見えます。しかしほんの少しでも感情が乱れると全然映らなくなります。ですから夜、呼吸をととのえて、一日中の事をすべて忘れて、ジーツとしていきますと、急に

スクリーンがポカッと浮かんできます。特に、その日に起こったマイナスの出来事はすべて忘れてしまふ習慣をつけるようにしました。

映像が見えたら、それをよく覚えてイメージを浮かべ続けておいて、部屋の明りをつけて、すぐにノートブックに記録します」

色を用いるテレパシー練習法

——テレパシーについて特訓的に急速に開発する方法がありますか。

「そうですね、急激に開発するのはむづかしいですね。大体に急激にやったことは急激にさめることが多いです。すると精神的なギャップが大きいため疲労が激しくなつて、一気にのみ返しみたいない状態が起こります。

ですから急激にやろうとしないで、一年ぐらひかけてじっくりやればテレパシー能力が強くなる方法はあると思いますね。

たとえば色と形を応用する方法があります。かりにある一週間を紫の週とさめて、紫色の紙を丸く切つたものを壁に貼りつけておきます。一面真っ白い壁みたいな所に貼るとよいでしょう。それだけを一週間、毎夜寝る前に三十分間見つめるのです。それを紫の週としたら、次の週は赤をやり、次は黄色というふうな、違う色を一週間ずつ眺めるトレーニングをやりま

すると、そのうちにその色の紙の中に象徴的な自意識の中の波動が映像化されて見えてくるようになります。たとえば車に乗っているときの自分の姿とか、その他の光景が投影されて見えなくなるんです。

すると色の種類によつて映像の内容がきまつてきます。それが見えてきた段階で、今度は色の紙を除いて、真っ白い壁に直接対座してそれを見つめます。

あるいは何人かの人がグループを形成して集まり、言葉を用いないで身振りなどで意志を伝達し合うゲームを毎週一回必ずやるとよいでしょう。

または二人の人間が向かい合つて、リラククスしながら、まばたきしないで互いに目を見つめ合う練習をやりま

す。これを五分か十分続けます。以上の練習を毎週一回ずつ行うのです。たとえば水曜日には色の紙を見る練習、金曜日にはジェスチャーで意志を伝え合う練習、土曜日には互いに目を見つめ合う練習というふうな

に実行する日と、どんなことがあつてもこれを必ず実行し続けられれば絶対に大丈夫です。必ずテレパシー能力は出てきます。一年続けて能力が出ないことはまずあり得ません。

こういうふうな、最初から紙とか色のパターンとかの象徴を応用してそれをクセにしてトレーニングを続けま

力を開発できるようになります。ところが、ただ単純に超能力がほしいというヴィジュアライズだけでゆきますと、突然に発現して、精神錯乱的なコントロールできない性質のものになりがちです。

だから最初の蛇口の取り付けみたいなものをうまく設定しておいて、それから始めるとよいですね。

あるいはヒヤシンスなどの球根をガラス張りの水槽に入れて栽培し、それが成長する過程を観察するのも超能力開発に有益です。動物の成長の過程を観察しても、自分の能力がそれにつれて大きくなります。機会があればこうした超能力開発のノウハウを一冊の本にまとめてみたいと思つて

とにかく超能力開発は楽しい気分です。ゲーム感覚でやるのが大切です。毎日三十分トレーニングをやるのは実際は一般の人にとつて大変でしょうが、少なくとも十五分ぐらひの時間をとつて、どんなに忙しくても絶対にそれを続けるという姿勢が大切です。とにかく続けるということが能力開発の絶対的条件ですね。

私も最初トレーニングを始めた頃、ある程度超能力が出かかつたときに、何かの用事で忙しくて忘れま

て、一から始めねばならず、大変です。

信念は鍛えれば伸びる

ですから根本的には意志、信念の力が重要です。信念というのは鍛えれば伸びるものなんです。たとえばテレパシーの力をトレーニングで伸ばすというのはかなり漠然としていて暗中模索的ですが、信念の力を鍛えるというのはだれでも確実にやれることです。

超能力トレーニングを楽しく続けるには、その信念の力を基礎にした上で、先程お話ししましたような具体的な方法を応用して、なるべく楽におこなえるように心のバランスを保つとよいでしょう。

宇宙人の持っている超能力のノウハウはすごいと思いますが、彼らもそれはそれを超えるために血みどろの取り組みをした時期があると思いますね、遠い大昔でしょうが。

ですから私たち地球人が考え出すいろいろな可能性の分野に関して、彼らはそのほとんどの答を持っているでしょう。ただそれをそのまま地球人に与えたのでは、人間は怠惰ですから、『はい、有難うございます』と言ってそのまま頂いて、あとはそれきりということになるでしょうね。やはり人間は自分の力で開発して向上するのが本当なのでしょう」

ブラックホールは存在する

——話は変わりますが、木星の表面にある大赤斑ですが、あれは一体何ですか。人工的なものとしてはえらく巨大ですけれど。それとも自然現象ですか。「それは私にもわかりません。受ける印象としては人工的なもののような気がします。たしかあの惑星は自転速度が速かったから調整的なことをやっているのかも知れませんがね」

——自転といえは金星の自転速度はどれくらいですか。

「ええと、ちよつと度忘れしましたが、金星の自転も速かったと思います」

——これは天文学上の仮説ですが、ブラックホールは本当に存在するのですか。

「ええ、あれは存在します。非常に強い力を持っていると聞いています。それで宇宙人によれば、あれさえも合理的に使っている者がいるそうです。あれを合理的に使うと空間から別な空間へというマークみたいにして使えるようになるというわけです。あれは一種の空間の裂け目なんです。空間の密度のエネルギーを超えているので、時間エネルギーがあの中につかまるんです。光は当然つかまらずけどね。一方ホワイトホールというのもブラックホールと同じ数ほどあるのだそうです。それは別な空間でちゃんとした通路でつながっているんです。宇宙人側の知識

によりますと、どこどここのブラックホールが、どこどここのホワイトホールとつながっているかを示す地図があるんだそうです。

ただし彼ら宇宙人はそのブラックホールを制覇するのに、地球人が月へ到達したのと同じくらいの努力をしたということですよ。犠牲者も出たのかも知れませんが。しかし地球人もいつかはそのレベルにまで行くかも知れませんが、それが解明できないと、空間から別空間への移動は理論的には全然導き出せないと言っていました。つまり現実のものにならないで仮説理論で終わるんです。まだまだ地球人の段階では統一場理論の最後が出てくるのに時間がかかるようですね。

大体ニュートンの運動方程式の一部分が違うんです。それを認めないとそつちへ入ってこれないんです。だから最初の立脚段階における運動方程式というのは一面的な真理しか見ていないんです。いろんな側面から見ないとむつかしいようですね」

UFOは四次元世界から来るのではない

——よくUFOは四次元空間から出てくるといわれますが、そんなことはないでしょう？

「いまの段階で地球人が四次元というもの仮定してしまうと自体が問題ではないかと彼ら宇宙人は言っていま

した。われわれは三次元世界でやれる範囲のことをやらねばならないから三次元世界に住んでいるわけで、したがって四次元が解明されないのは当然です。地球人は四次元や多次元のことを考えないほうがよいと言っていましたね。まず足元から発想をもつていつて、いろいろなものを解明してゆくほうが、未知のものを解明するのに近道だということです」

続いて春川氏は心理学者のユングや超心理学者のラインなどについて該博な知識を滔々と伝えたが、編者がいつも驚くのは豊富な知識もさることながら抜群の暗記力である。よくもこうまで覚えておられるものだと感嘆のほかない。

このあと話は実業界、政界、フリーメイソンなどに及び、波動の良い人たちを氏が列挙する。特に政界のニューリダー三人のうちの高波動の人の名に言及した。なるほどと思う。フリーメイソンの内幕についてもすごく詳しい。

氏によると、フリーメイソンは一般に陰險なユダヤ結社と思われているけれども実際はそうではなく、源泉はスペース・ピープルにさかのぼるといいます。つまりスペース・ピープルが地球の平和を願って地球人に示唆した友愛運動なのである。ただ昔から伝えられている秘密な儀式めいたものがあるために一般で誤解されているということらし

い。ただし反メーソンのグループもあって、その裏面に関しても氏は蘊蓄を傾ける。

察するに氏のごとく強力な意志と信念、抜群のテレパシー能力とそれを応用した感知力と判断力、博識などが相俟ってレギュラーのコンタクトティーとして扱われると思われるので、こうなると、だれもかれもというわけにはゆかないだろうが、根本的には万人の内部に宇宙の意識が宿るのであるから、進歩向上してスペース・ピープルから直接指導を受ける可能性は潜在していると言えるだろう。あとは個人の意志と実行力次第である。

最後まで激励しなさい

今度は一つの病人のケースを持ち出した。都内のあるGAP会員の職場の同僚のお父さんが脳血栓で倒れて植物人間になってしまい、到底助かる見込みはないので、医師もサジを投げて生命維持装置をはずしたらどうかという示唆をしたために、家族は処置に困ってその会員に打ち明けたところ、会員S氏は編者（久保田）に助けを求めてきたのである。

実際、編者にも適切な回答は浮かばなかった。助からないことがわかってる病人の看病や付き添いが家族にとって大変な負担になることは編者自身も以前に入院して病院内の悲惨な実態

をまのあたりにしてよく理解しているつもりなので、家族の気苦労や心痛を思うと、むしろ医師の勧告に従うほうが双方のためになるのではないかという気もしたのである。

当初このことを電話で春川氏に伝えたとところ、病人の氏名と年齢がわかれば明確になるのだがと前置きしながらも、編者の話を聞いただけでその波動により病状が大体に感知できるという血液の流れが大幅に弱って、全身の細胞も活気を失っているの、家族の人たちがそばから病人の体に「細胞よ生き返りなさい」と強烈な想念波動を放射し、病人の耳が少しでも聞こえるようなら、テープレコーダーに家族の声で、「頑張つて下さい。元気になって下さい」という激励の言葉を録音し、病人の耳にイヤホンを通して、奇跡が生聞かせ続けるようにすれば、奇跡が生じるかもしれないと言ってきた。そして、どんなに死にかかっている絶望的な病人にたいしても、家族はそれにたいして絶対にマイナスの想念を起こさずに、最後の最後まで病人が快復したイメージを描き続けるのが本当の愛だと言っているので、そのとおりをS氏に伝えただけである。

この話を再度出したら春川氏は言う。「私も以前にこんなケースを聞いたことがあって、家族はさぞ大変だろうなあと思います、宇宙人に聞いてみたくて、そうしたら、彼らは、『絶対に助か

らない病気だということがわかっていても、周囲の人たちは最後まで絶対におかしなビジョンを描いてはいけません』と言っていました。病人にたいしては『生きるのだ』というビジョンのみで接しなさいというのです。そこで私は、そんな姿勢をとり続けるのは家族は大変に苦しい負担をかかえることになるのではないかと反論したんです。しかし彼らは『それが愛なのだ』と言っていました。それは周囲の人たちが本当の愛を持ち得るかどうかを試されることにもなるというのです。宇宙人はその点で大変きびしいともいえずし、また強いんです。

周囲の人たちは、病気というのは幻みみたいなもので本当は存在しないんだと思えばよいのです。

聞くところによりますと、宇宙人のなかにもたまにはほんの少し病気になる人があるそうです。偉大な惑星では病気はすべて克服されて、人々は驚異的な長寿を保つのですが（注）これはアダムスキーの『宇宙からの訪問者』中にも述べてある、高年齢の方のなかにはたまに病気が出ることもあるらしいんです。その場合は大勢の人がその周囲に集まって治すんだそうです。大勢の人の高次元な想念波の集中によって治すということです。

大体、偉大な惑星の人々は自分の死期をかなり以前から予知できるそうです。時間を地球式に換算して三、四年

ぐらい前からわかるらしいんです。しかもそれを全然恐れていません。死にたいという構えが地球人とは全く違うんです。毅然としてるんです」

腐敗しない遺体

別な惑星の方々は、息が絶えたあとの死体をどのように処理するのですか。まさか地球のように焼くわけはないでしょうね。

「理想的なかたちで亡くなるのですが、聞いたところによりますと、ちゃんとした墓所があるということですよ。そして土の中に埋葬するというかたちをとるんだそうです」

「焼くのではないんですか。」

「高周波か何かのビームで瞬間的に死体を分解して消滅させると何かで読んだような気がしますが。」

「さあ、その点はよく知りませんが、一度こういう光景を見たことがあるんです。これは今までほとんど人に話したことはないんですが、むかし尼さんの死体がいつまでも腐らなかつたという例があるでしょう？」

「ああ、フランスのベルナデットですか。」

「あれと同じようなケースでして、宇宙人の長老の方の遺体ですが、百年間もたっているのに銀色の髪の手がキラキラ輝いているんです。肌も生きてい

るかのように、今眠ったのかというほど生き生きして、その遺体がクリスタルのカプセルの中に横たわっているんです。そして遺体の周囲は黄金で囲んであります。あれは地球の黄金と同じ物質だということでした。部屋全体も黄金で覆われているんです。

よほど偉い人だったらしく、その遺体から発する波動にもなにかあたたかみがあるんです。でもこれは百年前に死んだのだということでした。そういう光景を別な惑星で見せられたことがあります」

「それは金星でのことですか。」「いいえ、以前にお話ししましたカシオペアの方向にある別な太陽系の中の惑星です(注＝本誌93号の連載第一回の記事を参照)。この分野の話をしますと誤解を招きやすいので、今までほとんど人に話したことはないんです。

その墓所というのも独特なもので、六角形の金属みたいな柱の中に死体をに入れて埋葬するんですが、普通は十年ほどたてば遺体も容器も完全に分解してしまふんだそうです。高周波分解とまでゆかなくても、なにか理想的な状態になるんでしょね。

結局、物質には人間の想念波が吸収されて残ります。そのときの想念の内容が良ければ死後の死体もみにくい状態にならないんです。ですから波動の高い方で長く屍體のような状態で残る方もあるわけです。そこまで至らない

人でも死後は細胞が急速にバラバラに分解して、物質に還元されるようですよ。ですから地球みたいに腐爛したり醜悪な状態になることはないんだそうです」

「焼くよりは自然のまままで分解するほうがよいというわけでしょうね。」「地球で死体を焼くのは、腐爛してバクテリアがわくのを防ぐため、衛生上の問題から焼くのですが、たまにはベルナデットみたいに焼かないでいつまでも遺体がミイラ化して残る例もありますけれども、あの場合ほものすごく高度な波動を発する状態で亡くなったのだろうと思います。宇宙人の世界ではそれが当然のことのようになっているの

でしょう。バクテリアさえも死後の死体の威厳に近寄れないのでしょうか。」「腐敗しないといえ、以前こういう現象がありました。私がある場所で宇宙人とコンタクトしたんですが、そこにミカン畑があつたんです。ミカン小屋の中にミカンが沢山入れてありましたが、その畑の持主は私の知り合いました。その友人は非常に理解のある人で、実は私が円盤に乗る場面を見ています。もつともUFOの分野には全く無関係で、家の農業をついで、いま二十七、八歳ぐらいの人です。その人が後日、「不思議なことがある」と言うのです。

円盤はその谷間みたいな所に着陸したのですが、その山のなだらかな斜面の上部にミカンの木が植えてあり、ミカンを冷凍している小屋があるんです。すると谷間側の別な小屋に入れたあつたミカンが冷房を切っても全然腐らないと言います。大体にミカンというのはちょっと日向においてもすぐカビが生えてだめになるんですが、それが新鮮な状態に保たれているというわけです。そこでいろいろと調べてみたんですが、中味は全然変わっていないんです。だから腐らない理由が全くわからないというのです。そこら辺が波動の問題になるんでしょうね」

「それは円盤から出た放射線の影響でしょうね。」「ええ、そうでしょう」

先号の巻頭言にも書いたように、春川正一氏の家庭にはきわめて上品な明るい親切な雰囲気満ちており、心底から体が休まるようなフィリリングがわいてくる。

対談の途中で母堂が出てこられて丁寧な挨拶をされたあと、コーヒーを出して下さったので編者は恐縮してお礼の言葉を述べた。

すると母堂は氏にむかって「砂糖は入れてありますからね」とおっしゃった。

そこで氏は母堂にむかって「はい、有難うございます」と頭を下げて丁寧なお礼の言葉を述べた。

二十六歳の青年が実の母親にむかっ

て、こんなに丁寧な言葉を述べる光景を見たのがこれが初めてである。これをもて春川氏の人柄が普通の人とは全く違うことがわかる。

食事を共にするときなど、氏は合掌してから食べることが多い。合掌といえば宗教的に響くかもしれないが、感謝の気持を表現するのにこの形式が悪からうはずはない。編者も昔はこれをやっていたが、絶えて久しく実行していない。

昨年三月に春川氏と知り合ってから交流を続けるうちに編者がUFOを目標とする回数が増え急激にふえてきた。昨年七月十二日、本誌94号を全国会員向け発送するために本部役員・遠藤昭則君が運転する車で神田郵便局へ向かう途中、浅草橋付近の蔵前橋通りを進行中、突如前方の空中に逆U字形の巨大な白いスジが青空に浮かび上がった。驚いて二人で見つめると、そのスジは数秒後に消滅した。あとでこのことを春川氏に話すと、その逆U字形は円盤が激励の意味で空中に描く典型的なサインであると氏は言っていた。

また本年一月二十日の夕方、都内新宿で春川氏に会うために自宅を出て外部の非常階段を降りながら、ふと東側の空を見たところ、点滅しないオレンジ色の光体が水平にゆっくり飛行し、次第に輝度が増大して真っ赤な光体となり、パッと消えた。これも円盤からのサインであるらしい。(以下次号)

投稿欄

ユーコン広場



アダムスキーの書物に感動

広島市 沖元優子

はじめまして。私は広島に住む二十三歳のOLです(もうすぐ二十四になりますけど)。偶然めぐりあわせて、いやいや運命的だったのだと思います。ジョージ・アダムスキーの本とめぐりあい、感動に胸が震え、ペンをにぎっているという次第です。感動なんていうものではないかもしれませんが。ぶつとびました。私をとりまいて邪魔しつづけていた壁が一瞬のうちに消失した感じでした。二十三年間生きてきて、こうじやないのかな!? こうするべきなんじゃないかな!? と思っていたことに對して、そうだよ!! と大鼓判を押してもらった感じでした。どんな哲学者でも、どんなに偉い(とされている)学者のいうことも不満足で、宗教に至っては本来の目的を全く見失って、歪曲、誤解このまない有様で、地球のゆくやこも不安に思っていました。核問題、環境破壊、教育問題、経済問題、人種差別、戦争……。そして人間喪失。人々は平和な世の中だと口々に言うけれど、私は、本当に平和といえるんだらうか!? このままの状態がぬくぬくと生きられるはずはないと思っています。同じ誤ちを繰り返して、隣人どうしが憎みあい反目し続け、同じ地の底をはいがり回るだけでしょ。血迷ったままの人間でありつづけるで

しょう。私はもういいかげん膨大な犠牲者を出してきたのだから、自分の中にある錯覚や呪縛に気づいて、それらを自らの手で解く時期がきていいのではないかと思います。人間の愚かさを謙虚に認めて科学への過信を捨て、自然に對する畏敬の念を持って生活すべきだと思います。私は二十三年間、自分なりに真理を追究してきたつもりですが、やつと心から納得し、めぐりあうべき本にめぐりあえたという思いです。アダムスキーの本にめぐりあうために今まで私があつたといつても過言ではないと思います。そして「自然の法則」に勝るものはない」と小さい時から教えを授けてくれた両親に感謝しています。

私は今はゴルフ場に勤めています。三月にはやめて、四月からバイトをしながら専門学校に行くつもりです。自分の夢を実現させるために、ぜひとも一から本当の勉強をしたいのです。既成概念にかたわられて夢みただけであきらめかけていたけれど、就職してからますます俗世間に対する反発心や夢を実現させたいという気持ちがつり、両親の理解もあつて学生にもどることにしました。たとえ私の創作するものが多くの人に理解されなくても、私はあきらめず努力するつもりです。宇宙の平和と進歩を願って心をこめて制作し、自分にできる限りの活動に力を注ぎたいと思っています。なんだか伝

本誌との不思議なめぐりあい

東京 佐藤 修

余談ではありますが、私、趣味で月面の地質学を研究しているのですが、先日、神田の書泉グランデの天文コーナーに足を運びましたところ、何か右手の先に「丁度下に手をついていましたので」表現しづらいたのですが、つやつとしたもしくは黒絹をながめている時のしっとりとした上品さでもないえばよいのでしようか、そのような感覚がおこつたのです。そんな心の中にしみこんで来るような好意的な感じを人に与える本とはどんな本だろうと思ひ、下を見えますと、そこに他には雑誌など全く置かれていない場所であるにもかかわらず置いてあつたのが「UFO contact」でした。それから私は何かにつかれたかのように本誌と他の天文書と共にレジへ持つてゆき、旧号の有無をたずね、残つていた91・92・93・95号を入手したのです。

えたいことがうまく表現できなくて、もどかしいのですが、とにかく私もアダムスキー氏を信頼し支援する一人であるということです。数年後いや数十年後になるかもしれませんが、彼が今世紀最大の偉人として必ず全人類に認められると信じて疑いません。

お客はスペース・ピープル?

愛知県 佐藤史朗

内容は読んだ時のおどろき。私はアダムスキーという人を知りませんでした。そこで一層もつと知りたいうつと手に取りたい、手に取つて理解したいというような不思議な心のたかぶりを感しました。ですからどんなに高くても古くてもかまいません。できるだけ旧号を入手したいのです。御無理は承知でお願い致します。

知っていないので南の方は全くわかりませんでした。それで若い男の人に「道がわからないのですが」と言いますと、若い男の人は「あ、そう、それじゃわかりやすいように道を言つてあげる」と言われ、そのとおりに走りました。非常にわかりやすく親切で、自動車の運転ができるのではないだろうかと思ひました。その車中でのことなのですが、男女二人は私が運転中、心の中で思っていることを二人で話すのです。それがあつたつてのことです。そしてその二人の客同士の会話は「うん、ん、ん、ん、うん、ん、ん」これで二人は話ができるようでした。私は思ひました。今まで名古屋市内でお客を乗せて走ってきたけど、こんな人は初めてだ。いつもは酔つ払いや、文句ばかり言うお客や、水商売の女の人とか、態度の悪いお客ばかりなのですが、直感でこの二人はスペース・ピープルではないだろうかと思ひました。そして私は心の中で僕は自分の脳を何パーセントぐらいつづけているのかなアと思つていると、うしろから左の若い男の人が「一パーセントと言いました。そして彼ら自分達のことでは確か二四パーセントと言っていました。(ここでアダムスキーの著書を読んだ人ならわかると思ひますが、彼らがどこの惑星から来た人かわかると思ひます)

そして目的地に着いて若い男の人は料金(確か五千五百円くらい)を払いましたが、僕はスペース・ピープルからお金を受け取るわけにはいかないと思ひ、「料金はいいです」と言いました。若い男の人はニコニコ笑いながら「ええええ」と言つて

昭和62年東京月例研究会 1月 東京月例研究会

●昭和六十二年一月十日(土)

●東京都 東京文化会館

●出席者 七十九名

新春のさわやかな雰囲気の中で、一九八七年最初の東京月例研究会は幕を開けた。

「皆様、明けましておめでとうございます」——司会の篠芳史氏の凛とした挨拶で会場には快い緊張と静けさが満ち渡る。

プログラムはその篠芳史氏の体験講演で始まった。「私の目標・テレパシー能力開発に向けて」と題するお話は、東京本部役員総代という名にふさわしく、普段から宇宙哲学を実践しているという自信が随所に感じられると同時に、それを自慢にしない謙虚な話しぶりが氏の人格の高潔さを物語っていた。特に冬山を登りながら今年の目標を意識に問い続け、回答を得られたというお話には深く感動した。

続いて久保田先生による「生命の科学」第十二課の解説講義が始まった。新年最初のお話であり、また「生命の科学」解説講義の総決算ということもあり、先生のお話には今まで以上の力強さが感じられる。特に「私たちは今生の目標を、地球で最高の書物である『生命の科学』一本に絞り、この生涯で死にもぐるいで実践しようという

決意を持たなければダメだ」というお話に、私も大きくうなずいた。

次の久保田先生と遠藤昭則氏のご指導による独自のテキストを用いてのテレパシー練習は、バランスのとれた能力の開発という方針を反映した素晴らしい内容で、着実にその成果が現れおり、遠藤氏も喜んでおられた。

そして久保田先生による大変興味深い近況報告のあと、毎年恒例の全員記念撮影がなごやかに終われ、意見発表、熱心な質疑応答が続き、終始素晴らしい雰囲気の中で東京月例研究会は幕を閉じた。渾身の力を振り絞って私たちをご指導下さった久保田先生に心から御礼申し上げます。(安藤澄雄)

第8回松山支部大会

●昭和六十二年三月二十一日(土)

●松山市 ホテル・シャトーテル松山

●出席者 五十七名

久保田先生は大会前日の夕刻、浜村夫妻と共に松山空港にご到着になり、その足で宿舎のホテルに入られた。空港に着陸する直前、飛行機のやや上空に黒くて丸い物体が浮かんでいるのを空港ビル屋上にいた伊藤が目撃している。

翌日の大会には、松山支部が対外活動を通して「知り合い」になった新しい方々が数多く会場につめかけ、これまでの大会とはかなり違った清新な雰囲気をかもし出した。

先生は、(1)太陽系には物理学でいう「逆二乗の法則」に反して働く「単極磁気」が存在しており、これが太陽のエネルギーをはるか遠方まで運ぶ役目を果たしているらしいこと、(2)地球人は科学の進歩に伴って精神面がおろそかになり、不思議な出来事を「驚異」と感じる力を失っていること、(3)宇宙全体が意識体であり、人間と同じ生き物として呼吸している、(4)その宇宙に満ちている宇宙の意識を解説した「生命の科学」がすごい書物であることがわかってきたこと、この書物を真剣に読んで実践をくり返せば驚くべき超能力が出てくることを松山市の一会員の

体験を紹介しながら力説された。

初めて出席した人々の間からは惜しいものどとは思ってもいませんでした。こんな会合は私の人生で初めての体験です」と感激の面持ちで語っていた。また兄弟で参加した小学生の少年は、「久保田のオジさんのお話はよく理解できた。やっぱりすごいオジさんだ」と驚嘆したという話が伝わっている。数多くの新人に多大のインパクトを与えた大会であった。久保田先生と参加された皆様、支部の皆様にご心からお礼を申し上げます。(伊藤達夫)



出かけよう、宇宙の彼方へ!

〈予告〉62年度地方支部大会〈その2〉

	第9回 静岡支部大会	第1回 青森・秋田合同支部大会
日時	5月4日(祭日・3日連休の中日) 午後1:00→5:00	6月21日(日) 午後1:00→5:00
会場と交通	「静岡ステーションホテル」 8Fホール ☎0542-81-7300 静岡市南町8 静岡駅南口(裏側)前、徒歩1分。 東京駅より静岡駅まで新幹線こだま号で1時間半、新大塚駅より2時間半。ひかり号を利用すれば30分短縮できるが静岡に停車しない列車があるので要注意。いずれも途中乗換なし。	「アスパム」(青森県観光物産館) 6F会議室 ☎0177-35-5311 青森市安方1丁目1-40 青森駅前大通りを直進、3つめの交差点を左折、三角形の大きな建物。
会費	¥2000 (希望者の全員記念写真代¥800を別納。グランドキャビネ判。送料共)	左に同じ。
プログラム	司会 舩 民典 1:00 支部代表挨拶 野口敏治 1:10 会員体験講演「ミラクル・ワード、ミラクル・イメージ、宇宙の意識」高梨和明 1:50 休憩 1:55 会員体験講演「実践アダムスキー哲学」野口敏治 2:35 休憩 2:45 講演「宇宙の人間になるにはどうすればよいか」日本GAP会長・久保田八郎先生 3:55 休憩・全員記念撮影 4:25 全員自己紹介・質疑応答 5:00 閉会 ※今年静岡支部が発足して10年目、支部報も100号となりますので、これらを記念して大会・夕食会共盛大に企画されています。先生の静岡での大講演を今年も大いに期待して下さい。 ※前号予告のプログラムが変更になりました。	司会 田村嘉彦 1:00 支部代表挨拶 鈴木武男 伊藤正治 1:15 講演「驚異的なアダムスキー問題」日本GAP会長・久保田八郎先生 2:30 全員記念撮影・休憩 3:00 全員自己紹介・質疑応答 5:00 閉会 ※昭和57年8月に青森支部のみで大会を開催したことがあります。今回より秋田支部と合同で行うことになりました。5年ぶりの青森市における大会は雰囲気を一変して盛大に挙行されます。東北・北海道南部の会員の皆様、多数ご参集下さい。人情厚い土地であったかくお迎えします。観光も素晴らしい景勝地へご案内いたします。
夕食会	大会終了後6:00より希望者による夕食会を同じホテルの同じホールで開催します。 会費¥5000	大会終了後6:00より希望者による夕食会を「青森グリーンホテル」(青森市新町1丁目11-22 ☎0177-23-2001)にて開催します。 会費¥4500
宿舎	「静岡ステーションホテル」(大会会場と同じホテル)をお世話します。 シングル ¥4800 (税込) 60室 ツイン ¥9500 (〃) 4室 和室(2人) ¥9500 (〃) 2室	「青森グリーンホテル」をお世話します。 シングル ¥4700 (税込) 20室 ツイン ¥9000 (〃) 5室
申込	大会、夕食会、宿舎、観光の申込はハガキにいずれかを記して4月末日までに下記へ。 〒422 静岡市西島304-9 野口敏治 ☎0542-86-7729	大会、夕食会、宿舎、観光の申込はハガキにいずれかを記して5月末日までに下記へ。 〒030 青森市大矢沢字里見806 (コスモス書房) 鈴木武男 ☎0177-38-1660
観光	大会翌日は希望者で静岡市内観光。駿府城跡(昔、徳川家康はこの城内の中庭に着陸した円盤と乗員にコンタクトしたといわれている)、臨濟寺、登呂遺跡その他の名所旧跡を見学。朝9:00ホテルを出発。午後4:00静岡駅で解散。 ※観光は先着55名でメ切りです。費用¥3000(昼食代共)	大会翌日は希望者で新緑の奥入瀬渓流と神秘的湖、十和田湖を観光します。朝9:00ホテル前出発、午後4:00青森空港で久保田先生をお見送り後、午後5:00青森駅で解散。なお十和田湖から盛岡駅行、大館駅行の国鉄バス等がありますので、希望者はそこで解散されても結構です(午後2:00)。費用¥3000(遊覧船代、昼食代共)
備考	5月の月例会は大会のため中止。	両支部とも6月の月例会は大会のため中止。

(35頁より)なかつた空から雲一つない空にとって変わりました。私には信じられません。他の会員の方が私と同じような事をしたのではないのでしょうか。

自分の机にもどりました。そこで昨日のテレバシー練習を思い出ししました。トランプの赤黒を当てることをしてみようと思いましたが。驚きませんでした。結果はこうです。十回中、正解八回、不正解一回、答を見てしまった一回。まぐれは続く時は続くものだと思います。私はこれからできるだけ毎日テレバシー練習をしようと思いましたが。実を言うと少しだけ自信がわいているのです。昔からUFOらしきものを見たり写真に撮ったり(ともに一回だけで)

春川説の傍証が出た!?

埼玉県 清水畑 博
スフィングスの下に金属反応が出

たという情報を見つけたのでお知らせします。それは去る三月二十八日(火)午後七時半より九時までテレビ東京の土曜スペシャル「大ピラミッドの謎、秘密の部屋に迫る」と題して放映されたドキュメントで、次のような注目すべき新発見が伝えられました。

(1) スフィングスはクフ王のピラミッドよりかなり以前に作られた。
(2) クフ王のピラミッドの内部には従来知られた部屋の他にもいくつかの部屋があるらしい。
(3) ピラミッドは奴隷を使って作られたものではない。玄室の上の五つの重力分散の部屋に、従事した人々の落書きが残されている。クフ王をた

たえるものや自分たちの町や村の内

容などが書かれている。
(4) ピラミッドの底辺の長さや高さの関係及び Kt 3-14 との関係が簡単に述べられたが、もう少し詳しい話をすればよかった。
(5) (3)と(4)により、ピラミッドは当時の技術水準(天文、建設、数学等)の記念品というべきか。
(6) スフィングスの地下に金属反応があった。これはスフィングスの左や右前の位置で、地表からの深さは不明なるも、長さ十二メートルの強い金属反応が二カ所ある。
(7) 調査した早大グループは当時の冶金の技術を推定して、金か青銅の物体らしいとしている。

(8) 金属探知機のメカニズムは小生にはわからないが、もし地表より真下

のごく狭い範囲の探知しかできないものであれば(指向性が強ければ)走査した線上の反応しか見いだすことができない。仮に金属の物体が円形であったとしても「円形」とは判断できない。よって金属反応があった地点では平行に数カ所探索すべきだったと思う。

(9) 早大ピラミッド調査団のレポートが入手できればよいのだが――。
(10) にかく砂しかないと思われた土地の地下に強い金属反応が得られたということは非常に価値がある。

以上により、本誌96号29頁で春川氏が語っている「スフィングスの底には一つの大きな円盤が眠っています」を立証する可能性があると思われ

ジョージ・アダムスキー全集

久保田八郎訳 全8巻 B6判・本文上質紙・厚手表紙箱入豪華本

偉大な進化をとげた惑星の人々とコンタクトしたアダムスキーの驚くべき体験と、深遠な宇宙的思想を伝えたこの全集は、人類に宇宙覚醒と真の生き方を示す最高の指針。UFOと宇宙哲学の研究者必読の名著です。

1 宇宙からの訪問者

三三八頁 二五〇〇円

ジョージ・アダムスキーのあまりにも有名な体験記。一九五二年十一月二十日に米カリフォルニア州の砂漠で金星人と会見した体験「空飛ぶ円盤は着陸した」を本書の第I部とし、円盤や母船に乗り、多数の異星人と会見した実録を第II部とし、驚愕的な書物。本全集の中心をなす最重要なもの。

2 UFO問題の真相

二六二頁 二五〇〇円

第I巻の補遺的なUFOと異星人問題の真相を詳述。特に円盤の推進理論や、聖書とUFOとの関係について簡潔に述べた。第II部はアダムスキーの世界講演旅行記。各国のGAPグループの活動と反応や、サイレンス・グループの妨害が克明に描写されている。

3 UFOとアダムスキー

三五〇頁 二五〇〇円

アダムスキーが実際に体験した母船による宇宙旅行を詳細に述べた「金星旅行記」と「土星旅行記」から成る本書第I部「死と空間を超えて」が圧巻。またアダムスキーが存命中に日本GAP会長・久保田八郎に送り続けたほう大な情報と書簡類を取録して第II部とした。

4 宇宙哲学

一四八頁 一三〇〇円

人間のセンス・マインド・肉体の心と宇宙の意識との一体化を中心思想として、人間を進ませる方法を明快に理論整然と説く。この哲学は、人間の意識と物質との関係の解明と応用をめざす21世紀の科学の最先端をゆくもので、アダムスキーの哲学関係三著作の中心となるもの。

5 テレパシー開発法

一九〇頁 一八〇〇円

人間に内在する宇宙的な能力のうち、テレパシー能力の開発法を説明した。特に目・耳・鼻・口の四官をコントロールして、内部の意識から来るパワッシュクな印象を感じる方法を詳しく解説し、他と無言の会話をう技術を描いた。類書の全く存在しないガイドブック。

6 生命の科学

二〇五頁 一八〇〇円

アダムスキーが世界する数年前に出した「Science of Life」と題する十二分冊の宇宙の哲学を一書にまとめたもの。アダムスキーの宇宙の哲学の終極的な一大金庫塔、真実のテレパシーと心霊的な宇宙通信の相連を明確にし、心霊現象への接近を警告する画期的な書。

7 アダムスキー論説集

三七〇頁 二五〇〇円

日本GAP機関誌に掲載されたのみで、単行本化されていなかったアダムスキーの論説や講演録等を網羅編さんしたもの。特に死去する直前の最後の講演が圧巻。第II部にはアダムスキー研究者として名高い久保田八郎が数度度来してアダムスキーの高弟たちと久保田ハチロー記事を取録。アダムスキーの偉大な面が描写されている。

8 質疑応答集

二〇〇〇円

アダムスキーは一九五八年に質疑応答集を自費出版で頒布した。五分冊から成る小冊子で、全部で百問の質問と回答を取録してある。内容は現在の混沌とした世界のUFO研究界に的確な解答と示唆を与えるものとして驚くほど新鮮である。これと本全集はア氏の重要な文献すべてを網羅した。

発行所直接注文の場合に限り、左記のように定価・送料をサービスいたします。
 ☆一冊注文 一括注文(正価) 八八〇〇円
 ☆第一巻より第四巻まで 一括注文(正価) 八八〇〇円
 ☆第五巻より第八巻まで 一括注文(正価) 八八〇〇円
 ☆第一巻より第八巻まで 一括注文(正価) 六九〇〇円
 ↓送料無料。書籍代のみ(送料下さい)
 ↓特別セット価格 七三〇〇円(送料共)
 ↓全巻セット価格 一四七〇〇円(送料共)

文久書林 〒113 東京都文京区西片1-19-10 西片ハウス2F ☎(03)813-9561 振替/東京4-2521

英文版「UFO contactee」No.3刊行中

■60年7月に刊行したNo.1は世界のUFO研究界で絶賛を博しつつあり、長い伝統を誇るイギリスのUFO専門誌Flying Saucer Review誌、イギリスGAP機関誌ニュースレター32号、デンマークGAP機関誌ufo contactその他が記事を転載して激賞している。また多数の欧米UFO研究グループと機関誌や情報交換のルートを確認、日本GAPは名実共に東洋最大のUFOと宇宙哲学研究グループとして一躍脚光を浴びるに至った。

■第3号も久保田日本GAP会長が執筆した格調高い英文記事により、本誌93号に掲載した春川正一氏の「私は別な惑星へ行って来た！」の連載第1回分を掲載。早くも海外UFO研究界で注目をあびている。会長みずからプロ用大型電子英文タイプライターを駆使して版下を作成。デザイン、レイアウトから1字1句に至るまで会長が熱意をこめて作ったこの国際的文献をぜひお読み下さい。英語学習用にも好適。

B5判 12頁 上質紙使用 ¥300(送料¥170、3冊まで¥240、10冊まで¥350) 注文は郵便振替で下記へ。切手代用も歓迎。
 日本GAP 振替 東京4-35912



A Young Japanese Man Visits Other Planets (PART 1)

by Hachiro Kubota

No one will dispute the fact that there are many other planets in our solar system but Earth. In order to prove this, some unknown probes have played an important role in the research of planets Venus, Saturn, Jupiter, etc.

However, there have been a number of contactees in many countries claiming to have gone aboard space ships from other worlds belonging to our solar system. If these artificial flying machines really come from the planets in outer space, we must recognize that highly advanced civilizations exist on some of them. Do the U.S. and U.K.S.A. cover up the astounding facts for fear that the world will be stricken by a series panic?

George Adamski, an American contactee, claimed in his famous books that he contacted space people from other planets in our solar system. In addition to the controversial contact stories, he described his visits to planets Venus and Saturn, and was surprised to see greatly advanced societies there. "Bitchinoids"! No. Strange as it may seem, there have been a large number of sightings of Adamaki-type flying saucers as well as cigar-shaped mother ships all over the world. Recently, a young girl (member of GAP-Japan) witnessed with her mother an Adamaki-type saucer having three balls at the bottom hovering over a mountain in the middle of the night. This happened in Aomikawa, Hokkaido in the summer of 1986. It can be said that there is sufficient evidence to conclude these sightings as an implication that Adamski's stories were absolutely true.

In addition, we have an amazing story of a Japanese contactee named Shobichi Harukawa (pseudonym), 28, who also claims

He now lives in a small city in the Tohoku district of Japan and works as a government official. If it is of any concern his father is in a high position in the government office. Besides being very sincere and honest, he is an excellent gentleman showing wonderful abilities of clairvoyance and perception of man's "aura" as well.

Now, this is his own story of which he personally told this writer on several occasions. We have had it published through GAP-Japan Newsletter in a serial form thus creating a sensation in the field of UFO in Japan. So, we have decided to give the wonderful story in our English bulletin. The questioner is Hachiro Kubota, a writer and representative of GAP-Japan.

Sending Out His Thoughts to the Starry Sky

K: What prompted you to contact the space people?

H: I was a second year student at a junior high school when I awakened to the wonders of space. At first, I lived in a large city, and then moved to the country surrounded by mountains. My classmates and teachers often teased me because I moved from the city. I had no friends and was lonely in my state of affairs. One day I read about "space" and strongly felt like making an appointment in space for response. I did not know anything about George Adamski at the time. Each night for a month, I sent out my im-

昭和62年度

●日本GAP第9回海外研修旅行●

行こう、アダムスキーの大地と謎のマヤ遺跡へ！

アメリカ 東部
西部
メキシコの旅

★旅行期間 昭和62年8月5日→16日

★参加費用 ¥578,000
(24カ月分割払いも可)

▶旅行の日程大要は次のとおりです。8月5日夕方成田空港をノースウェスト航空ジャンボ機で出発。約9時間半の飛行後同日(時差の関係でアメリカは1日遅れる)午前ロサンゼルスに到着、ただちに終日の市内観光にはいり、夜はロサンゼルス泊。翌6日朝、専用バスでロサンゼルスを出発。アリゾナ州寄りの広漠たるモハービ砂漠の一角デザートセンターを視察。ここは1952年11月20日アダムスキーと金星人オーソンが劇的な会見を行った歴史的場所です。GAP会員必見の地点。過去5回実地調査の実績をもち、ロサンゼルスより現地までの道順と現地の地形を知っている日本GAP会長・久保田八郎が現地まで案内します(ア氏の会見の詳細については『宇宙からの訪問者』第1部を参照して下さい)。同日夕方ロサンゼルスへ帰着後、ロサンゼルス泊。7日朝専用バスで南下、パロマー山へ登り、アダムスキーが一族と共に生活した山腹のパロマーガーデンズの住居跡を視察。続いて山頂の有名なパロマー天文台を見学。今回は大望遠鏡の主鏡位置まで行けるように手配の予定。山を降りてロサンゼルスへ引き返し、夕方ロサンゼルスより空路メキシコ市へ飛び、同夜メキシコ市泊。8日朝専用バスで市の北東50kmのテオティワカン大遺跡を見学、雄大な太陽のピラミッドと月のピラミッドに登頂後、他の遺跡群を観光。市内へ引き返して世界的に名高い人類学博物館その他を周遊。同夜メキシコ市泊。9日早朝メキシコ市より空路タパスコ州の美しい都市ピリャエルモサへ飛び、専用バスでバレンケへ直行。大密林中に息づくマヤ古典期後期(8世紀前半)の聖地遺跡を視察。夕方ピリャエルモサより空路ユカタン州の州都メリダへ到着、同夜はメリダ泊。10日はメリダ南方80kmのマヤ古典期後期最大のウシュマル遺跡群を見学後、メリダより空路ユカタン半島北端のカンクン着、専用バスで海岸保養地アクマルへ行き、同夜アクマル泊。11日は終日アクマルで自由行動。白砂の浜とエメラルドグリーンに輝くカリブ海で日光浴・海水浴に興じて終日保養。同夜アクマル泊。12日午前カンクン空港より空路アメリカのニューヨークへ飛び、同夜はニューヨーク泊。13日午前ニューヨークより空路ボストン入り。アダムスキーの高弟として唯一人健在なノースポロ在住のアリス・ポマロイ夫人と会見。ボストン市内を観光。夕方列車でニューヨークへ帰着後、同夜ニューヨーク泊。14日、旅行最後の日は終日ニューヨーク市内観光。エンパイアステートビルディング展望

宇宙的視野を拡大するにはまず私たちのホーム惑星地球の再発見が必要という見地にもとづき、日本GAPは昭和54年8月に第1回海外研修旅行を実施して以来、世界の謎の遺跡・名所旧跡・大都市などを見学して多大の成果をあげてまいりましたが、昭和62年度は第9回目としてアメリカとメキシコを訪れる旅にしました。過去アメリカへは3度行っていますが今回の訪米は西部に加えて東部の大都市ニューヨークとボストン訪問が特色になっています。またメキシコは古代マヤ民族の謎の遺跡の宝庫であり、ジェームズ・チャーチワードの研究によりムー大陸との関連が知られています。この素晴らしい旅にぜひご参加下さい。

写真上は55年8月、パロマー天文台。下はメキシコ、バレンケの遺跡。



台、その他を周遊。同夜ニューヨーク泊。15日午後ニューヨークを出発、一路帰国の途につき、ノンストップで13時間半の飛行後、16日(日)午後成田着、という日程です。

▶この旅行日程は提携旅行会社の田中正(日本GAP東京本部役員)と久保田八郎が過去の経験を生かして綿密に練り上げた手作りのコースで、類似の旅は他社で見られません。特にデザートセンター視察を含むアメリカ西部東部の旅はめったに企画できませんので多数ご参加下されば幸いです。ベテラン添乗員の田中と団体引率の経験豊富な久保田が同行し、心温まるお世話をいたします。GAP独特の家族的な雰囲気と満ちた愉快の上ない旅の日々をおすごしの上、忘れがたい思い出を残して下さい。アメリカ、メキシコ共、現地では優秀な日本人ガイドが案内します。

▶旅行中の食事は朝食毎日、昼食6回、夕食5回付きです。24回払いのローンでも行けます(毎月約¥26,000払い)。

▶詳細については下記へハガキで案内書をお申し込み下さい。

〒150 東京都渋谷区東3-24-9、サンイーストビル2F
ワールドセブトラベル株式会社 田中正(宛)
☎03-499-2461 日・祭・夜間は 0474-77-4728(田中自宅)へ。

企画 日本GAP/主催 株式会社日本旅行(運輸大臣登録一般旅行業第2号)/販売 旅行代理店ワールドセブトラベル株式会社(運輸大臣登録旅行業代理店業1957号)

◆◆◆◆ U.S.A. & MEXICO ◆◆◆◆



日本GAP全国月例研究会案内



支部名	日 時	会 場	会 費	携 行 品 ・ 行 事
東京本部	毎月第2土曜日 午後1:30→6:00 ※8月のみ第1土曜日の日に皇居北の丸公園の科学技術館6F会議室にて開催。9月は総会のため中止。	上野公園内「東京文化会館」4階会議室。 ☎03-828-2111。国電「上野駅」の「公園口」下車。改札口の真向かいスグ。 連絡先＝日本GAP ☎03-651-0958	会場費 ¥500 セミナー 受講料 ¥1000 計¥1500	1:30→2:30 会員による体験講演。 2:30→4:00 久保田会長の「テレパシー開発法」 講義と近況報告、テレパシー練習、休憩。 4:00→6:00 自己紹介、意見発表、質疑応答。
大阪支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00	大阪府吹田市出口町4丁目「吹田市民会館」 ☎388-7351。国鉄または阪急電車「吹田駅」下車。 連絡先＝平塚和義 ☎06-436-3478	¥300	テキストとして「テレパシー開発法」を持参。 東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。テレパシー練習・研究発表・座談会。
新潟支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00	長岡市今朝白1丁目「けさじろ荘」 ☎0258-33-7400。長岡駅東口より徒歩5分。無料駐車場あり。 連絡先＝星富治夫 ☎02579-2-5562	¥500	テキストとして「テレパシー開発法」を持参。 東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。テレパシー練習・座談会。
福岡支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00 ※10月は大会のため月例会は中止。	福岡市天神町5丁目1-23「福岡市民会館」3F 国際会議控室 連絡先＝喜多正宣 ☎092-863-5438	¥500	テキストとして「テレパシー開発法」を持参。 東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。テレパシー練習。
名古屋支部	毎月第2日曜日 午後1:00→4:30 ※6月、7月、8月は会場を名古屋市民会館に変更。日時は同じ。	名古屋市中村区那古野1-47-1「名古屋国際センタービル」5F第2会議室。☎052-581-5678。 国鉄・名鉄・地下鉄の名古屋駅より徒歩7分。 連絡先＝林 国直 ☎0586-45-6468	¥300	テキストとして「テレパシー開発法」を持参。 東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。研究発表・テレパシー練習・座談会。
仙台支部	毎月第4日曜日 午後1:10→4:20	仙台市「市民会館」会議室（西公園内） 連絡先＝笠原弘可 ☎022-295 0725	¥300	テキストとして「テレパシー開発法」を持参。 東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。テレパシー練習・座談会。
山形支部	毎月第1日曜日 午後1:00→5:00	山形市小白川町「社会福祉センター」 ☎0236-42-5181。山形駅よりバスで貯金局前下車・徒歩3分。 連絡先＝柴田光明 ☎0233-25-3261	¥200	テキストとして「テレパシー開発法」を持参。 東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。テレパシー練習・研究発表・座談会。
札幌支部	毎月第1日曜日 午後1:00→4:30	中央区北一条西13丁目「札幌市教育文化会館」会議室。 ☎011-271-5821 連絡先＝高野省志 ☎011-822-8260	¥500	テキストとして「テレパシー開発法」を持参。 東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。テレパシー練習・座談会。
静岡支部	毎月第1日曜日 午後1:00→5:00 ※5月は大会のため月例会は中止。	静岡市黒金町「静岡労政会館」5階会議室。 ☎0542-21-6280。静岡駅北口より徒歩5分。 連絡先＝野口敏治 ☎0542-86-7729	¥200	テキストとして「テレパシー開発法」を持参。 東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。テレパシー練習・研究発表。
旭川支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00	旭川市6条通4丁目「勤労者福祉会館」2F小会議室。 ☎0166-26-1304。 連絡先＝阿部 堯 ☎01658-2-1585	¥500	テキストとして「テレパシー開発法」を持参。 東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。研究発表・質疑応答・テレパシー練習。
松山支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00	奇数月：広島市広島駅ビル内「ステーションホテル」5F会議室。 偶数月：松山市民会館会議室。 連絡先＝伊藤達夫 ☎0898-22-3060	¥200	テキストとして「テレパシー開発法」を持参。 東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。質疑応答・座談会。
群馬支部	毎月第2日曜日 午後1:00→5:00	群馬県太田市「社会教育総合センター」3F。 連絡先＝久保寺信一 店：☎0276-25-5958 自宅：☎0276-45-3544	¥200	テキストとして「テレパシー開発法」を持参。 東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。座談会。
青森支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00 ※6月は大会のため月例会は中止。	青森市松原「青森市民文化センター」教養室。 ☎0177-34-0163 連絡先＝鈴木武男 ☎0177-38 1660	¥300	テキストとして「テレパシー開発法」を持参。 東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。テレパシー練習・研究発表等。
沖縄支部	毎月第3日曜日 午後1:00→6:00	那覇市寄宮1-2「那覇市民会館」1FA会議室。 ☎0988-55-5081。与儀公園の隣。 連絡先＝新里義雄 ☎0988-54 1623	¥500	テキストとして「テレパシー開発法」を持参。 東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。質疑応答・想念観察とテレパシーの研究報告・自己紹介・座談会等。
秋田支部	毎月第2日曜日 午後1:00→5:00 ※6月は大会のため月例会は中止。	秋田市八橋運動公園1-2「中央公民館」趣味の間。 ☎0188-24-5377。 連絡先＝伊藤正治 ☎0188-62-2831	¥200	テキストとして「テレパシー開発法」を持参。 東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。テレパシー練習・座談会。
神奈川支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00	神奈川県川崎市川崎区富士見2-5-2「川崎市立労働会館」4階4号室。☎044-222-4416。国鉄京浜急行「川崎駅」下車。市バス・ふ頭線・労働会館前。 連絡先＝大崎孝典 ☎0492-65-0389	¥500	テキストとして「テレパシー開発法」を持参。 東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。研究発表・座談会等。
茨城支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00	水戸市梅香1-2「水戸市中央公民館」4F小集會室。 ☎0292-24 6600。水戸駅北口より徒歩10分。 連絡先＝清水勝一 ☎0292 73 1903	¥300	テキストとして「テレパシー開発法」を持参。 東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。テレパシー練習・座談会・研究発表等。
長野支部	毎月第4日曜日 午後1:00→4:30 ※4月より会場を2カ所に変更。 11月は大会のため月例会は中止。	奇数月：塩尻市大門7番町「塩尻総合文化センター」第1会議室。☎0263-54-1253。 偶数月：松本市県「あがたの森文化会館」2F。 ☎0263 32 1812。 連絡先＝博田文彦 ☎0263 58 8510	¥500	テキストとして「テレパシー開発法」を持参。 東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。テレパシー練習・座談会・研究発表等。
紀南会	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00	和歌山県新宮市新宮6682-1「新宮市福祉センター」1F相談室。☎0735-21 2760。国鉄新宮駅下車。徒歩5分。 連絡先＝松口幸之助 ☎0735 34 0605(呼・田中)	¥300	テキストとして「テレパシー開発法」と「宇宙からの訪問者」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。テレパシー練習・研究発表・座談会。
栃木支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00	栃木県鹿沼市(市役所裏)「御殿山会館」1F小会議室 ☎0289 64 4334。国鉄鹿沼駅から西の方向へ徒歩1.5km。バスは小栗川行に乗り、天神町で下車。徒歩5分。 連絡先＝渡辺克明 ☎0289 62 3319	¥500	テキストとして「テレパシー開発法」を持参。 東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。テレパシー練習・座談会・研究発表等。

★本誌バックナンバー(旧号)★

わが国でアダムスキー問題を正しく伝える唯一の文献である本誌は後世に残る貴重な資料となるものです。ぜひおそろえ下さい。下記以外の旧号も残っています。お問合せ下さい。

No.93 主要記事「月面にいた2機のUFO」/「超低空に出現した大型円盤と黒い人影」並原弘司「私も光体を見た」伊藤達夫「多くの館」G.アダムスキー/「質疑応答」G.アダムスキー/「私は別な惑星へ行ってきた」春川正一

No.94 主要記事「テレパシーで飛来した真っ黒い円盤」堀江健一/「八丈富士山麓でUFOを撮影」谷口美雄/「地球を救う愛の想念放射運動」山崎清美/「母船の周囲には人工大気層がある」G.アダムスキー/「私は別な惑星へ行ってきた」(連載第2回)春川正一

No.95 主要記事「茨城県千代田村のUFO」日本GAP茨城支部/「アダムスキー問題に対する考察」内田格男/「私のUFO目撃と不思議な体験」中嶋順子/「ジャンボジェットに並行して飛んだ円盤」久保田八郎/「私の別惑星訪問体験とアダムスキーの真実性」春川正一

No.96 主要記事「私のオーラ透視とテレパシー現象」清水南/「京都市上空にUFO5回出現」久保田八郎/「想念放射透視、UFO目撃」遠藤昭則/「UFOと心霊は無関係」G.アダムスキー/「私は別な惑星へ行ってきた」(連載第3回)春川正一

各々¥700 バックナンバーに限り送料は不要

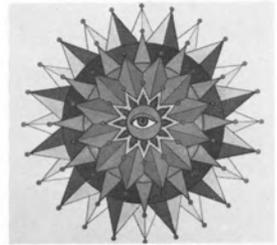
「テレパシー開発法」と「アダムスキー論説集」解説講義録音テープ

昭和62年2月より12月まで東京月例研究会で日本GAP会長・久保田八郎先生が新鮮雄大な構想のもとにアダムスキーの名著を解説する録音テープ。テレパシーを主体に人間を救う能力開発法を説いた名講義。GAP会員必聴の重要資料。月例会における近況報告も録音。

テープ1本(120分) ¥1300 送料¥200

*このテープは日本GAPでは取扱いませんので、××月分と記して必ず下記へご注文下さい。(2月分より在庫)

〒430 静岡県浜松市三島町808-2 小島国弘
☎0534-42-3507 振替=名古屋7-51065



①オーソン肖像写真 ②シンボルマーク

①1952年11月20日、カリフォルニアの砂漠でアダムスキーが劇的な最初のコンタクトをした金星人は「宇宙からの訪問者」第二部でオーソンという名で出てくるが、これをア氏の記録やアリス・ウエルズのスケッチにもとづいて女流画家ゲイ・ベッツが描いた名画の写真。(キャビネ判・カラー写真) [上半身写真もあり。定価¥600]

②この金星のシンボル・マークの中央にある眼は「すべてを見透す眼」で、宇宙の意識をあらわし、周回の四層の星は人間のマインド(心)の発達状態をあらわしている。(サービ判判・カラー写真) 上記2点共、重要な資料となるものです。他所では入手できません。ご注文は必ず日本GAP宛直接に振替でどうぞ。

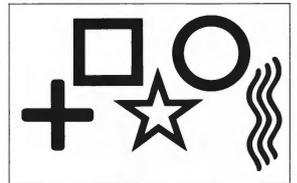
①¥600 送料¥120 ②¥300 送料¥60 一括注文の場合送料¥120

テレパシー練習用
③ゼナーカード

アメリカで開発されて世界的に広まったテレパシー練習用カード。5種1組のカードを1箱に5組、計25枚収納。美麗箱入り。

¥600 送料¥120

①+②+③の場合送料¥170



会員募集

日本GAPはUFO研究界の大先駆者・久保田八郎が故アダムスキー氏と提携して1961年に創立したわが国最大のUFOと宇宙哲学の研究大集団/多数の会員と共に宇宙の人間を目指そう/入会案内書をハガキで日本GAPへ申し込もう/

—日本GAP—

日本GAP 特別維持会員制のお知らせ

昨年七月、会員有志の発案により日本GAPの健全な運営と会長久保田八郎先生により良き活動を願って特別維持会員制度を設けており、すでに多数の方の賛同を頂いております。近年高騰する物価のため普通会費の徴収のみでは会の運営が困難であり、この活動に専念される先生も経済的に無理が生じやすいためこの制度によってGAPと先生を援助しようとする有志が結束しました。趣意をこり解の上多数ご参加下さいました。趣意をこり解の上多数ご参加下さいました。趣意をこり解の上多数ご参加下さいました。

参加希望の方はハガキで日本GAP内松村芳之宛お申込下さい。趣意書と振替用紙をお送りします。

発起人：篠芳史、松村芳之、東京本部役員一同、野口敏治、伊藤達夫

新作 会員バッジ

ジョージ・アダムスキーが金星人から与えられた唯一のバッジと形、色共全く同様に複製した径18mmの丸い優美なバッジです。薄青色地に金色のシンボルマークが浮彫りされており、縁も金色です。表面には透明樹脂が掛けてありますからキズがつかず、光を反射してキラキラ輝きます。男性用は裏側が心棒ネジ止め式、女性用は裏側が安全ピン式です。ぜひお求め下さい。ご注文のさいは男性用・女性用の別を明記して郵便振替で日本GAPへご注文下さい。(無断複製を禁じます)



1個 ¥2000 送料4個まで ¥120

日本GAP機関誌・季刊 夏月号
UFO contactee 97号
編集発行人 久保田八郎
発行所 日本GAP
〒133 東京都江戸川区本一色1-12-1
電話 03-651-0911
振替 東京 4335912
昭和六十二年四月二十日発行
定価 2000円・送料 2000円
※本誌掲載の全記事・写真共、他の印刷物への無断転載を禁じます。

●本号にもまたヒット記事が出ました。「驚異の書『生命の科学』と円盤大接近」がそれで、これからみて「生命の科学」がいかにすごい書物であるかがわかります。今後第二の坂本氏、成瀬氏が輩出することを期待します。

●八王子市でUFOを撮影の写真(表紙に掲載)も近來まれにみる素晴らしいUFO写真です。この一連の記事からわかりますように、体験者の高度な精神性と純粋さがUFO出現と密接な関係を有するもののように、考えさせられる問題です。

●語りかけたらUFO出た!は有名な人による珍しい体験記で注目にあたいします。この記事の切抜きを寄せられた長野県松本市の会員・榎原心一氏に感謝します。巻頭言の金星の大褶曲山脈の記事切抜きは静岡県磐田市の会員・鈴木芳美氏の提供になるものです。

●大好評の連載記事「質疑応答」がついに完結しました。アダムスキー全集の第八巻に加えますので反響熱狂に便利です。

●絶賛連載中の「私は別な惑星へ行ってきた」も佳境に入り、本号も有益な内容に溢れています。次号で完結予定です。

●UFO目撃、テレパシー開発等の体験をもつ方はご一報下さい。原稿書きが苦手ならば当方または最寄りの支部より出張して対談による取材をします。また新聞雑誌に掲載された宇宙開発やUFO関係の記事切抜きを歓迎します。本誌の情報網を拡大する意味で皆様の方で盛り立てて下されば幸いです。

●本誌は百名余のボランティアにより全国主要書店に卸されています。卸しチームに参加希望者はハガキでお申込下さい。説明書をお送りいたします。

編集後記

●本号にもまたヒット記事が出ました。「驚異の書『生命の科学』と円盤大接近」がそれで、これからみて「生命の科学」がいかにすごい書物であるかがわかります。今後第二の坂本氏、成瀬氏が輩出することを期待します。

●八王子市でUFOを撮影の写真(表紙に掲載)も近來まれにみる素晴らしいUFO写真です。この一連の記事からわかりますように、体験者の高度な精神性と純粋さがUFO出現と密接な関係を有するもののように、考えさせられる問題です。

●語りかけたらUFO出た!は有名な人による珍しい体験記で注目にあたいします。この記事の切抜きを寄せられた長野県松本市の会員・榎原心一氏に感謝します。巻頭言の金星の大褶曲山脈の記事切抜きは静岡県磐田市の会員・鈴木芳美氏の提供になるものです。

●大好評の連載記事「質疑応答」がついに完結しました。アダムスキー全集の第八巻に加えますので反響熱狂に便利です。

●絶賛連載中の「私は別な惑星へ行ってきた」も佳境に入り、本号も有益な内容に溢れています。次号で完結予定です。

●UFO目撃、テレパシー開発等の体験をもつ方はご一報下さい。原稿書きが苦手ならば当方または最寄りの支部より出張して対談による取材をします。また新聞雑誌に掲載された宇宙開発やUFO関係の記事切抜きを歓迎します。本誌の情報網を拡大する意味で皆様の方で盛り立てて下されば幸いです。

●本誌は百名余のボランティアにより全国主要書店に卸されています。卸しチームに参加希望者はハガキでお申込下さい。説明書をお送りいたします。

